

ラジオ塔についての覚書

はじめに

ラジオ塔は、ラジオ（受信機）とスピーカーを内蔵した建造物である（写真1）。一九三〇年（昭和五）から四〇年代はじめに全国の公園・広場や寺社境内、学校、役場前など公共の場に設置された。戦後、ながらくその存在は忘却されていたが、近年、当時を伝える貴重な地域歴史遺産としてひろく注目を集めるようになっていく。



写真1 大阪府箕面公園瀧安寺ラジオ塔（撮影：凶師宣忠）

『朝日新聞』『読売新聞』『毎日新聞』のデータベースからラジオ塔関連記事を整理した凶師宣忠氏によれば、ラジオ塔関連の記事が増加するのは二〇〇七年ごろからである。「凶師 二〇〇九」。きっかけのひとつは、二〇〇七年に、前橋市中央児童遊園「るなばあく」（前橋市大手町）の旧ラジオ塔が国の登録有形文化財に指定されたことである。おなじころ、大阪府堺市では、大浜公園でラジオ塔が「発見」され、保全国に向け取り組みがはじまった。二〇〇一年四月には、中央広場にレブリカが設置された「岡村 二〇〇一」。全国で約四〇基が現存し、保

全や活用に向けた取り組みが実施されている。

ラジオ塔についての学術的な調査研究もはじまった。国立民族学博物館元客員教授の吉井正彦氏は、「ラジオ塔を知りませんか」と情報を募るとともに、忘れられたラジオ塔を精力的に探し歩いた「吉井 二〇〇八ほか」。吉井氏の呼びかけに呼応するようにラジオ塔への関心が高まり、各地でラジオ塔の「発見」があった「吉井 二〇一二、柴田 二〇一三」。

こうした機運の高まりのなかで、カメラマンの一番公平氏の手になる『ラヂオ塔大百科2011-2014』『ラヂオ塔大百科2017』『一番 二〇一四、二〇一七』が刊行された。ラジオ塔の歴史や機能・特徴をコンパクトにまとめ、日本全国と台湾の現存ラジオ塔を訪ね歩き、写真に解説をくわえたこの二冊の著作はラジオ塔図鑑ともいふべきもので、ラジオ塔の入門書として最適である。本稿は、一番氏に多くを学びつつ、ラジオ塔の歴史的な位置づけを考察したい。

第一章では、本稿の分析方法について述べる。ラジオ塔について語る歴史資料は、現在のところあまり多くない。そうしたなか、日本放送協会の事業報告書である『ラジオ年鑑』^①は、ラジオ塔調査の基本資料といえる。一九三一年（昭和六）の創刊で、昭和八年版以降、「ラジオ塔施設一覧」として全国のラジオ塔の所在地および設置年を記したリストを掲載する。ラジオ塔に言及する諸論考は『ラジオ年鑑』を少なからず参照しているが、全面的な活用にはいたっていない。本章は、『ラジオ年鑑』所収の「ラジオ塔施設一覧」を読み解くための留意点を整理し、予備的な考察を行う。

人見 佐知子

第二章では、ラジオ塔の設置主体や設置目的の変化に注目し、ラジオ塔建設の歴史的背景を明らかにする。ラジオ塔は、ラジオの普及を目的として設置されたといわれる。たしかに、一九三〇年代前半のラジオ塔はラジオの普及をおもな目的としていた。しかし、一九三〇年代半ば以降、ラジオ塔はさまざまな理由で設置された。

現存のラジオ塔をみても明らかのように、ラジオ塔の魅力のひとつは、バラエティに富んだユニークなデザイン性にある。アール・デコという昭和初期に流行した日本の建築様式の影響が色濃くみられるラジオ塔もある。「一幡 二〇一七」。ラジオ塔の意匠や形態にはどのような特徴がみられるのだろうか。またそれは、どのような地域性や歴史性をもっているのだろうか。第三章では、地域性にも目配りしながらラジオ塔の形態を類型化するとともに、意匠の変遷を歴史的に分析することとしたい。

なお、本稿は『ラジオ塔の歴史と現在（「報告書」 東大阪市内における近現代の歴史文化遺産についての調査研究）』[「図師ほか 二〇一九」（以下、『報告書』という）]によせた拙文をもとに、加筆・修正したものである。とくに、本稿の分析の基礎となる「ラジオ塔一覧」（別表）（詳細は第一章）は、本稿の作成にあたり再度見直し、数値等に修正をくわえた。そのため前稿から表中の数値に変更があるが、大意は変わらない。ご了承ください。

一 分析の方法

日本放送協会編『ラジオ年鑑』所収の「ラジオ塔施設一覧」をもとに一幡公平氏は、「巻末資料 ラジオ年鑑のラジオ塔一覧」を作成した。「一幡 二〇一七」。「ラジオ塔一覧」（別表）は、一幡氏作成の一覧をベースに、『ラジオ年鑑』の記載を照合するとともに、今回の調査結果を反映させ、データの修正・

追加をおこなったものである。本稿が分析の対象とするのは、「ラジオ塔一覧」（別表）掲載の（合計四六五基のラジオ塔である（樺太の三基をふくむ））。

分析にはいる前に、いくつかの留意点を述べておきたい。第一に、「ラジオ塔一覧」（別表）では、『ラジオ年鑑』および一幡氏のリストにある「移動用ラジオ塔」と「鉄道主要駅構内公衆用ラジオ聴取施設」を除いた。⁽²⁾いずれも実態は不明であるが、後者について一幡氏は、駅舎内にあったラジオ聴取施設で、塔などの構造物ではなく、「ラジオだけが置かれていたのではないか」と推測している。「一幡 二〇一四」。いずれにせよこれらは、ここで分析しようとする建造物としてのラジオ塔とは性格や形態が異なると考え、さしあたり今回の分析対象からはぶいた。

第二に、「ラジオ塔一覧」（別表）が、戦前に設置されたラジオ塔のすべてを網羅しているわけではないことである。まず、『ラジオ年鑑』未掲載のラジオ塔が存在する。現在判明するかぎりの『ラジオ年鑑』未掲載のラジオ塔を、表1にまと

表1 『ラジオ年鑑』未掲載のラジオ塔一覧

	所在地	ラジオ塔名称	設置年	西暦
1	名古屋市	志賀公園ラジオ塔	昭和 17 年	1942
2	名古屋市	中村公園ラジオ塔	不明	
3	名古屋市	松葉公園ラジオ塔	不明	
4	大阪市	中之島公園ラジオ塔	昭和 16 年	1941
5	京都市	紫野柳公園ラジオ塔	昭和 16 年	1941
6	京都市	小松原公園ラジオ塔	昭和 15 年	1940
7	京都市	萩児童公園ラジオ塔	昭和 16 年	1941
8	京都市	御射山公園ラジオ塔	不明	
9	長崎県西海市	旧崎戸小学校ラジオ塔	不明	
10	徳島市	別宮八幡神社ラジオ塔	不明（戦後）	
11	長野県上田市	上田城跡公園ラジオ塔	昭和 30 年	1955
12	台北市（台湾）	二二八和平公園ラジオ塔	昭和 9 年	1934
13	台中市（台湾）	台中公園ラジオ塔	不明	
14	屏東市（台湾）	屏東公園ラジオ塔	不明	

注) [一幡 2014] [一幡 2017] より作成。

めた(戦後のものをふくむ)。また、一幡氏がすでに指摘している「一幡 二〇一四」のように、「山形県各地町役場前」(No.98)は、山形県内に数カ所、各町役場前に設置された可能性がある。

第三は、『ラジオ年鑑』記載の名称は異なるものの、同一のラジオ塔である可能性についてである。⁽³⁾ 苫小牧町役場前(No.26)と苫小牧町本町(No.27)、富良野町市場(No.47)と富良野町市街(No.48)は、同一のラジオ塔の可能性が推察される。札幌市外円山公園(No.8)と札幌市円山公園(No.9)も同一の可能性が高いが、設置年が異なるため、さしあたり円山公園に二基のラジオ塔が存在したと考えておきたい。⁽⁴⁾ 福岡市記念公園(No.366)、福岡市大濠公園(No.367)、八幡市(現北九州市)宮田遊園地(No.369)、八幡市豊山公園(No.370)のラジオ塔についての疑問は、後述する。

第四は、ラジオ塔の設置年についての疑問である。たとえば、兵庫県六甲山公園ラジオ塔(No.244)は、『ラジオ年鑑』の記載では設置年は一九三九年(昭和一四)となっているが、柴田昭彦氏の調査により実際の設置年は一九四〇年(昭和一五)であったことが判明した「柴田 二〇一四」。どうやら『ラジオ年鑑』は、『ラジオ年鑑』発行年の前年あるいは前々年度までに設置が計画されたものを「施設一覧」として掲載したようである。⁽⁵⁾ そのため、竣工が翌年度(あるいは翌々年)以降にずれ込むなどした場合は、実際の設立年とは異なってしまうのである。

ところで、『ラジオ年鑑』(昭和一七年)以前の「ラジオ塔施設一覧」は、すでに設置・計画されたラジオ塔一覧に、新規に設置・計画されたラジオ塔を追加していく形式であったが、『ラジオ年鑑』(昭和一八年)は、設置数の激増のためか『ラジオ年鑑』(昭和一七年)以前の『ラジオ年鑑』未掲載のラジオ塔のみが掲載されたようである。その数、一一一基である。ただし、そのうち一

〇基は、『ラジオ年鑑』(昭和一七年)以前に、一九三九年(昭和一四)あるいは一九四〇年(昭和一五)建設のラジオ塔として記載がある。しかしながら、上述した『ラジオ年鑑』掲載の「ラジオ塔施設一覧」の性格をふまえて、『ラジオ年鑑』(昭和一八年)掲載のラジオ塔については、一九四一年(昭和一六)四月から一九四二年(昭和一七)三月までに設置(計画)されたものと考え、原則として設立年を一九四一年(昭和一六)とした。

ただし、成田山大阪別院明王院ラジオ塔(No.232)は、『ラジオ年鑑』(昭和一八年)が初出であるものの、同ラジオ塔の銘板では一九四〇年(昭和一五)の建設とよめる(後述)。そのため、「ラジオ塔一覧」(別表)の設置年は一九四〇年とした。

また、設置年が『ラジオ年鑑』によって異なる場合がある。とりわけ、『ラジオ年鑑』(昭和一六年)、『ラジオ年鑑』(昭和一七年)では、熊本管内の二九基のラジオ塔は、前者で一九四〇年(昭和一五)とされたものが、後者で一九三九年(昭和一四)となっている。これらも、『ラジオ年鑑』所収の「ラジオ塔施設一覧」の性格をふまえて、すなわち設置計画年と竣工年のズレを考慮し、さしあたり一九四〇年(昭和一五)を設置年とした。⁽⁶⁾

その他、個別の留意点については、「ラジオ塔一覧」(別表)の備考欄に記した。『ラジオ年鑑』の情報は述べてきたような制約や限界をかかえているがしかし、ラジオ塔設置の全体の傾向をうかがい知るに十分な価値をそなえている。以上の留意点をふまえて以下に、「ラジオ塔一覧」(別表)所収の四六五基のラジオ塔を分析する。

二 ラジオ塔設置の歴史的背景——二度にわたる建設ブーム

1 ラジオ塔のはじまり

本章では、ラジオ塔設置の歴史的背景を明らかにする。まず、ラジオ塔のはじまりについて述べる。全国で最初に建設されたラジオ塔は、大阪市天王寺公園ラジオ塔である（写真2）。一九三〇年（昭和五）、ラジオとラジオについての知識の普及を目的として大阪放送局が大阪市にラジオ塔を寄付した「図師ほか 二〇一九」。当時、ラジオの受信機が高級品であったことにくわえて、ラジオの聴取にも聴取料が必要であった。また、ラジオの受信には一定の技術と知識を必要とした。多くの人々にラジオを手軽に無料で聴いてもらい、ラジオの魅力を知ってもらうことでラジオの普及を図ろうとした「栗原 二〇一二」。ラジオ受信技術を解説する雑誌として「日本ラヂオ協会」が一九二五年（大正一四）に創刊した月刊誌『ラヂオの日本』「宮川 二〇一八」は、天王寺公園ラジオ塔の仕組みについて、次のような記事を掲載した。



写真2 天王寺公園ラジオ塔（出典：『ラヂオ年鑑』昭和6年）

史料1

新装成つた我国最初のラヂオ塔（口絵参照）

大阪中央放送局では今回同市天王寺公園音楽堂跡にラヂオ塔と称する高さ十二尺、巾五尺四方のスキリとしたモダン、タイプの建物を建設した。外面の中央にスキッチ用の押ボタンをつけ、内部に拡声受信装置をしたもので、そのボタンを押すと十分間スキッチが働きその時刻の放送が流れ出る。十分間を経過すると自動的にスキッチは働き停止するが又押せば直ぐ続きを聞かれるといふ仕掛けである。

（『ラヂオの日本』一一巻一号、一九三〇年七月）

スイッチを押すだけで人々は自由にラジオを聴くことができた。天王寺公園につづいて大阪放送局は、奈良公園、神戸市湊川公園（以上、一九三一年建設、京都市円山公園（一九三二年建設）にもラジオ塔を設置した。

ラジオ塔は設置されるやいなや、たちまち人気を博した。とりわけ人々の関心をあつめたのは、甲子園（全国中等学校野球大会）の実況中継である。中継が開始されるや、炎天下に数百人がラジオ塔のもとにあつまり、熱狂した（『ラヂオの日本』一三巻四号、一九三二年一〇月）。現在の京都市円山公園ラジオ塔側面にかかげられた写真は、ラジオ塔のそばにスコアボードを設置し、野球中継を楽しむ人々をとらえている。

ところで、ラジオ塔が全国各地にくまなく設置されたかという点、実は、そうではない。ラジオ塔の分布には地域的な偏りがある。表2は、都道府県別のラジオ塔建設数を、年代別に一覧にしたものである。ここからどのような傾向がみてとれるだろうか。

まず、ラジオ塔の基数に注目したい。表2から、ラジオ塔の基数を上位から

表2 都道府県別ラジオ塔設置数の変遷

	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	総計
北海道			5	1	1		1		1		25	18	52
青森県										4	2	2	8
岩手県			1							3		1	5
宮城県										4		8	12
秋田県			1							3	1	4	9
山形県			1							4		6	11
福島県			1							9	2	4	16
茨城県											2		2
栃木県											2	2	4
群馬県				1							2		3
埼玉県											2	1	3
千葉県											2		2
東京都			1					2	3		1		7
神奈川県			1								1		2
新潟県			1								1		2
富山県											3		3
石川県				1							4	1	6
福井県				1							4	1	6
山梨県								1					1
長野県				1							3	3	7
岐阜県				1							1	3	5
静岡県				1							3		4
愛知県				1							8		9
三重県											2	4	6
滋賀県										4	2		6
京都府			1			1				7	1	1	11
大阪府	1			2					1	15	8		27
兵庫県		1						2	1	4	8	1	17
奈良県		1								5	3	1	10
和歌山県				1						3	3	1	8
鳥取県				1						2	2	1	6
島根県				1						5	3	3	12
岡山県						1				7	2	2	12
広島県			1	1						11	5	2	20
山口県							1			8	5	2	16
徳島県				1						1	2	1	5
香川県						1				2	4	2	9
愛媛県							1			6	5	1	13
高知県				1						1	1	1	4
福岡県			8			1					16	7	32
佐賀県										2	1	1	3
長崎県							1		1		7	4	13
熊本県			1								10	6	17
大分県											6	3	9
宮崎県											6	4	10
鹿児島県											9	6	15
沖縄県											2	1	3
樺太											2		2
総計	1	2	23	16	1	4	4	4	8	108	183	111	465

表2-1 都道府県別ラジオ塔設置数

都道府県	数
1 北海道	52
2 福岡県	32
3 大阪府	27
4 広島県	20
5 兵庫県	17
5 熊本県	17
7 福島県	16
7 山口県	16
9 鹿児島県	15
10 愛媛県	13
10 長崎県	13
12 宮城県	12
12 島根県	12
12 岡山県	12
15 山形県	11
15 京都府	11
17 奈良県	10
17 宮崎県	10
19 秋田県	9
19 愛知県	9
19 香川県	9
19 大分県	9
23 青森県	8
23 和歌山県	8
25 東京都	7
25 長野県	7
27 石川県	6
27 福井県	6
27 三重県	6
27 滋賀県	6
27 鳥取県	6
32 岩手県	5
32 岐阜県	5
32 徳島県	5
35 栃木県	4
35 静岡県	4
35 高知県	4
38 富山県	3
38 群馬県	3
38 埼玉県	3
38 佐賀県	3
38 樺太	3
43 茨城県	2
43 千葉県	2
43 神奈川県	2
43 新潟県	2
43 沖縄県	2
48 山梨県	1
合計	465

一覧にしたものを作成した(表2・1)。これをみると、北海道の五二基から山梨県の一基までばらつきがみられる。上位には、北海道について、福岡県(三二基)、大阪府(二七基)、広島県(二〇基)、熊本県(二七基)、兵庫県(二七基)などがならぶ。北海道と福島県を除くと、上位一〇都道府県は西日本の府県が占める。

図1に都道府県別の分布をマップグラフで示した。同心円の中心が濃いほどラジオ塔の設置数が多い。これをみると明らかのように、ラジオ塔建設は西高東低の傾向がうかがえる。後述のように、ラジオ塔の建設計画・許可は支部ごとにおこなわれた。そこで、支部別のラジオ塔基数を、表3に掲げた。

表3によると、大阪・広島・熊本の西日本の各支部に設置されたラジオ塔で全体の約六割を占める。とりわけ、一九四〇年以降熊本支部で多くのラジオ塔が建設されていることがうかがえる。他方、直轄管内(東京支部)は、ラジオ塔建設に必ずしも熱心ではなかったようである。

なぜ、ラジオ塔の建設が西高東低であったのかについては、今回の調査で明らかになることはできなかった。ただ、ラジオ塔の最初が大阪放送局によるものであったことは、西高東低の状況に何らかの影響をおよぼしたかもしれない。一九二六年(大正一五)の日本放送協会設立にさかのぼること二年、一九二四年(大正一三)一二月に誕生した社団法人大阪放送局は、翌年放送を開始し、自主的に編成した番組を活発に放送していた。日本放送協会が設立されると大阪放送局は解散し、新たに日本放送協会大阪中央放送局(大阪支部)となったが、大阪放送局独自の企画をつぎつぎとうちだした。その代表が、一九二七年(昭和二)八月にはじまった全国中等学校優勝野球大会(甲子園)の実況放送である。全国初のスポーツ実況中継は大成をおさめた「以上、大阪市役所 一九五三、日本放送協会 一九七七ほか」。ラジオ体操を最初に放送し



図1 ラジオ塔の分布

表3 支部別ラジオ塔設置数

支部	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	総計
札幌			5	1	1		1		1		27	19	55
仙台			4							27	5	25	61
直轄			3	3				2	4		17	3	32
名古屋				4							24	12	40
大阪	1	2	1	5		3		2	2	44	28	6	94
広島			1	3			2			37	26	13	82
熊本			9			1	1		1		56	33	101
総計	1	2	23	16	1	4	4	4	8	108	183	111	465

注) 支部は、『ラジオ年鑑』初出の時点のもの。

たのも大阪放送局である「黒田 一九九
九」。一九三〇年（昭和五）のラジオ塔
の建設は、大阪放送局の気概を示す象徴
であったのかもしれない。

さて、図2は、年代別のラジオ塔設置
数の推移を示したものである。ラジオ塔
設置において、二度のブームがあったこ
とがうかがえる。最初は、一九三二年
（昭和七）から一九三三年（昭和八）に
かけてである（第一次建設ブーム）。二
度目は、一九四〇年（昭和一五）をピー
クとする一九三九年（昭和一四）から一
九四一年（昭和一六）にかけてである
（第二次建設ブーム）。とりわけ二度目の
波は巨大で、『ラジオ年鑑』記載のラジ
オ塔総数四六五基のうち四〇二基、じつ
に八六%以上がこの時期に建設されてい
る。
二度のブームの背景をさぐってみよ
う。

2 第一次建設ブーム——ラジオ聴取 者一〇〇万人突破記念

最初のラジオ塔建設ブームは、ラジオ

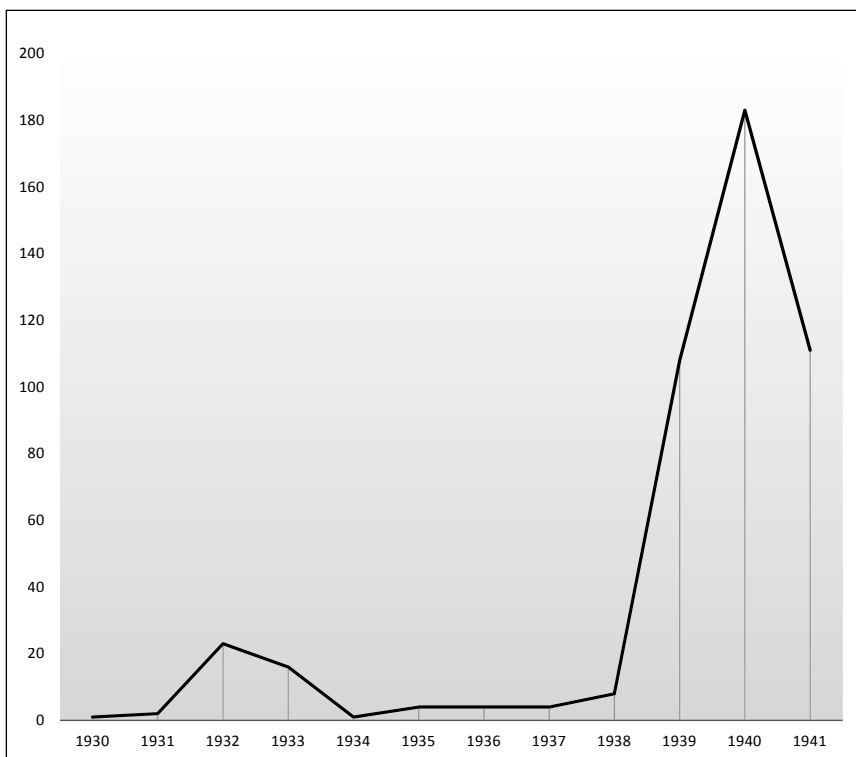


図2 年代別ラジオ塔設置数

聴取者一〇〇万人突破記念行事の一環として日本放送協会が主導した。
一九三三年（昭和七）二月一日、全国のラジオ聴取加入者が一〇〇万人を
突破した。聴取加入数の増加の背景には、満州事変があった。兵士の安否を気
遣う人々の戦況への関心がたかまり、満州事変の勃発した一九三一年度末に聴
取加入数が一気に増加した「日本放送協会 一九七七」。そこで日本放送協会

は、「百万突破記念施設」事業を計画した。『ラヂオ年鑑』（昭和八年）は、「百万突破記念施設」事業について、次のように述べている。

史料2

百万突破記念施設

事業経営上の基礎をなす聴取加入数は一般経済社会不況の波を超え、幸に順調なる上騰傾向を示し、七年二月十六日予期以上の好成绩を以て百万を突破するに至つた。それはもとよりラヂオの有する偉大なる機能の然らしめたものであるが、又その一半の功績は機能活動をして遺憾なからしめた事業関係者に帰せらるべきであらう。

従つて協会成立より百万突破に至る間の関係各官庁、放送出演者、ラヂオ商工関係者、聴取者等各方面の絶大なる援助に対して聊か謝意を表すると同時に将来一層の協力を乞ふため左の記念事業を行ふ事とした。

一、 記念放送週間

七年五月一日より一週間記念放送を行ひ、全国各局総動員して豪華番組を編成した。此の放送には特に従来放送されなかつた全国知名の士、演芸者等を多数マイクの前に招聘し、同時に「子供の時間」に於ては各局聯合して「東西日本早廻り放送リレー・レース」を行つた。

二、 記念展覧会

聴取料金の引下、放送事業発展の現況並に無線界の近状等を紹介するため東京、大阪、名古屋其の他支部所在地及適當の都市に於て記念展覧会を開催した。

三、 ラヂオ塔

大都市の公園其の他全国五十ヶ所にラヂオ塔を建設し、公衆の聴取便

宜の増進を計ると共に事業周知宣伝の一助とした。

四、 功労者の表彰

事業功労者、会員其の他に記念品を贈呈した。

五、 記念祝賀会

東京其の他各支部所在地に於て事業に対する功労者及関係者一同を招待して、祝賀会を開催した。

而して東京に於ては五月五日内閣総理大臣を始め朝野の貴顕、全国放送事業関係者並に功労者等数百名を帝国ホテルに招じ、記念祝賀の演奏会を催すと同時に記念番組の一としてその実況を全国に中継放送した。

（『ラヂオ年鑑』昭和八年版、七〇・七一頁）

史料2によると、日本放送協会は、五つの記念事業を計画した。すなわち、①一九三二年（昭和七）五月一日から一週間を「記念放送週間」とし、各局が「豪華番組」を編成すること、②聴取料金の引き下げや「放送事業発展の現況」、「無線界の近状」などを紹介する展覧会を各地で開催すること、③ラジオ塔の建設、④事業功労者の表彰、⑤事業功労者や内閣総理大臣をはじめとする関係者を招待して祝賀会を開催することである。ラジオ塔の建設が「百万突破記念施設」事業の一環に盛り込まれた背景に、大阪放送局が設置したラジオ塔の人気成功（先述）があつただらう。

では、ラジオ塔の建設計画は、どのような内容であつたのだろうか。ふたたび『ラヂオ年鑑』（昭和八年）を繙くと、次のようにある。

史料3

公衆用聴取施設

聴取加入数百万突破記念施設の一である所の公共奉仕用ラジオ塔は七年度に於て全国五十ヶ所へ施設の計画が樹てられ、塔の建設設計を専門家に嘱し十数種の考案を得、之を参考として実地の環境に適合するものを建設する事となり、全国各支部より建設予定ヶ所を調査・提案し、審査の結果、左記の通り各支部へ割当てられたものであるが、之が実施に当つては、建設箇所の関係上土地管理者側の希望、条件に依り、或は電源配線工事の難易等諸種の事情のために、大要別記の通り全国三十六、これに京阪地方既設のもの四ヶ所を加へ、総計四十ヶ所の全国主要なる公園、広場等常時多数人の蝟集する所に建設された。

『ラヂオ年鑑』昭和八年版、六六〇頁

まず、「聴取加入数百万突破記念施設」の一つとして、昭和七年度（一九三二年度）に全国五〇ヶ所のラジオ塔建設が計画されたのである。ラジオ塔の建設・設計は専門家に委嘱され、十数パターンが考案された。そのうえで日本放送協会は、全国各支部（直轄・大阪・名古屋・広島・熊本・仙台・札幌各支部）に、建設予定箇所を調査、提案させた。調査結果をうけて日本放送協会は、各支部に「建設予定数」を割り当てた。

ここで注目しておきたいことは、専門家が考案したラジオ塔の設計図を参考に、「実地の環境に適合するものを建設する事」となったという点である。このことが、ラジオ塔の意匠にバラエティをもたらすと同時に、地域的な特性も生み出すこととなった。ラジオ塔の意匠についての分析は、第三章にゆずる。

その後、①建設場所の土地管理者側の希望や条件、②電源配線工事の難易度

など「諸種の事情」を考慮して、最終的に設置箇所は三十六ヶ所に絞られた。これに既設四ヶ所（前述の天王寺公園、奈良公園、神戸湊川公園、京都円山公園）のラジオ塔をくわえて、合計四〇ヶ所の「全国主要なる公園、広場」など、「常時多数人の蝟集する所」にラジオ塔が建設されることとなった。表4に示したのは、各支部に割り当てられた建設予定数と設置場所である。設置場所として、七割以上で県庁所在地が選ばれていることは、「全国主要なる公園、広場」など「常時多数人の蝟集する所」に設置するという計画の趣旨に関連するのだろう。

表4によると、直轄・名古屋・広島では、当初割り当てられた「計画予定数」より設置箇所を減少させたが、札幌・熊本各支部は、「計画予定数」を超えてラジオ塔を建設したようである。ただし、仙台支部の「仙台桜ヶ岡公園」のラジオ塔は、昭和九年以降の『ラヂオ年鑑』に記載がなく、その後、『ラヂオ年鑑』（昭和一六年）に一九三九年（昭和一四）設置のラジオ塔として確認される（No.69）。設置が計画されたものの、何らかの事情で建設が延期され、「聴取加入数百万突破記念施設」とは異なる文脈でのちに設置された可能性が考えられる。この時点では、「位置だけ確定」とあった門司市のラジオ塔は、老松公園（現北九州市門司区老松公園）内に建設された（No.37）。『ラヂオ年鑑』記載の設置年は一九三二年（昭和七）であるが、竣工はそれ以降であった可能性が高い。

名古屋支部管下で、「経費の都合に依り浜松に建設の予定」とあるラジオ塔については、実際に建設されたかどうか不明である。『ラヂオ年鑑』掲載の浜松市のラジオ塔は、一九四〇年（昭和一五）建設の五社神社のものがある（No.173）。

ところで、「ラジオ塔一覧」（別表）から、一九三二年（昭和七）から一九三

表4 「聴取加入数百万突破記念施設」として計画されたラジオ塔一覧

	支部名	計画予定数	実施箇所数	建設箇所	備考	
1	直轄	13 (移動用1を含む)	固定 6 移動用 1	東京隅田公園	移動用は随時必要に応じ各所へ 臨時移動設置せむとするもの	
2				横浜野毛山公園		
3				新潟白山公園		
4				長野城山公園		
5				静岡清水公園		
6				前橋市		
7	大阪	8	(4)	天王寺公園	本計画前既に建設されてきたもの	
8				京都円山公園		
9				奈良公園		
10				神戸湊川公園		
11			4	大阪住吉公園		
12				徳島公園		
13				和歌山公園		
14				堺大浜公園		
15	名古屋	8	4	名古屋鶴舞公園	上記の外、経費の都合に依り浜 松に建設の予定	
16				金沢兼六公園		
17				岐阜公園		
18				福井佐佳枝神社境内		
19	広島	6	4	呉二河公園	広島以下三ヶ所は建設中	
20				広島市内公園		
21				松江市内公園		
22				高知市内公園		
23	熊本	6	7	熊本花畑公園	位置だけ確定	
24				福岡記念公園		
25				福岡東公園		
26				小倉勝山遊園地		
27				八幡宮田遊園地		
28				若松蛭子神社境内		
29				門司市		
30	仙台	5	5	仙台桜ヶ岡公園		
31				福島中央公園		
32				盛岡物産館前		
33				山形雁島公園		
34				秋田千秋公園		
35	札幌	5	5*	札幌大通道遥地		
36				函館東川小公園		
37				小樽公園		
38				旭川常磐公園		冬季休止
39				亀田郡大沼公園		冬季休止
40				函館駅前		

注) 『ラジオ年鑑』(昭和8年、660-661頁)より作成。

*は、6カ。

支部名は、『ラジオ年鑑』(昭和8、9年)では、それぞれ関東・関西・東海・中国・九州・東北・北海道の表記であったが、昭和10年以降の『ラジオ年鑑』の表記に統一した。

四年（昭和九）に建設されたラジオ塔数を抽出すると、四〇基となる。表4にふくまれないが、しかし同時期に建設されたラジオ塔として、札幌市中島公園（No.6）、鳥取市久松公園（No.268）、福岡市大濠公園（No.367）、八幡市豊山公園（No.370）のラジオ塔がある。札幌市中島公園ラジオ塔と鳥取市久松公園ラジオ塔は、「聴取加入数百万突破記念施設」とは別に建設されたものであろう。

福岡市大濠公園と八幡市豊山公園のラジオ塔は少々厄介である。というのも、大濠公園ラジオ塔の初出は、『ラヂオ年鑑』（昭和一三年）で、一九三二年（昭和七）建設のラジオ塔として掲載されたものである。同様に、豊山公園ラジオ塔の初出は『ラヂオ年鑑』（昭和一三年）で、一九三二年（昭和七）建設のラジオ塔として掲載された。これは、大濠公園および豊山公園のラジオ塔と入れ替わるように、一九三二年（昭和七）建設の二つのラジオ塔の記載がみられなくなる。福岡市記念公園ラジオ塔（No.366）と八幡市宮田遊園地ラジオ塔（No.369）である。いずれも、「聴取加入数百万突破記念施設」として計画・建設されたラジオ塔だが、『ラヂオ年鑑』（昭和一三年）以降は記載が消える。

福岡市記念公園ラジオ塔と大濠公園ラジオ塔は、施設年（一九三二年）、設計概要（「高一・八尺、下部二前幅同一九・八尺ノ腰掛アリ、軍艦マスト型」）ともに同じである。「記念公園」と「大濠公園」が同じである可能性も考えられるがしかし、一幡公平氏は福岡市記念公園は現在の福岡市博多区の中島公園と推測している「一幡 二〇一七」。だとすると福岡市中央区の大濠公園とは別の公園である。

八幡市豊山公園ラジオ塔と宮田遊園地ラジオ塔も、施設年（一九三二年）、設計概要（「高一〇尺、底部四・五尺平方、木造燈籠型」）ともに同じである⁽⁷⁾。いずれも同一のラジオ塔である可能性をもつが、事実関係の解明は今後の課題

としたい。

3 第二次建設ブーム——一九三九年（昭和一四）から一九四一年（昭和一六）

『ラジオ年鑑』で確認できる限りのラジオ塔数四六五基のうち、四〇二基が一九三九年（昭和一四）から一九四一年（昭和一六）に建設されたものである。これらのラジオ塔は、どのような経緯で建設されたのだろうか。

表5に、一九三五年（昭和一〇）以降（第一次建設ブーム以降）に建設されたラジオ塔について、現在判明する限りで、建設の契機、設置主体をまとめた。ここから、七つほどのパターンが析出できるように思われる。

- ① 個人の寄付による設置（香川県三豊郡仁尾町遊園地）
- ② 自治体の寄付による設置（京都市船岡山公園、岡山県津山市鶴山公園、愛媛県松山市城山公園、兵庫県明石市中崎遊園地、同尼崎市庄下川畔公園）
- ③ 自治体以外の団体の寄付による設置（福岡県戸畑市八幡神社境内、山口県下関市赤間宮境内、東京市品川聖蹟公園）
- ④ 放送協会の寄付による設置（大阪市大手前公園、埼玉県浦和市調宮公園）
- ⑤ 土地区画整理事業竣工の記念として設置（岡山市大藤公園、岡山市上伊福津倉町上伊福西公園、愛知県名古屋市志賀公園）
- ⑥ 皇紀二六〇〇年記念事業として設置（大阪府香里成田山公園、京都市小松原公園、同萩児童公園）
- ⑦ ⑤⑥の組み合わせ（大阪府布施市小坂公園）

以上のように整理したうえで、設置年代に注目してみよう。昭和一〇年代前

表5 第一次建設チーム以降のラジオ塔建設の契機について

『ラジオ年鑑』記載の名称	「ラジオ塔一覧」のNo.	設置年	西暦	現在の所在地	設置主体	銘板	備考	参考資料
1 香川県三豊郡仁尾町遊園地	No.339	昭和10	1935	香川県三豊市	塩田忠左衛門		昭和32年(1957)3月の流下式塩田の竣工記念碑として再利用(銘板、[一幡2017])	*
2 京都市船岡山公園	No.196	昭和10	1935	京都府京都市	京都市建設、受信機のみ貸付			*
3 津山市鶴山公園	No.286	昭和10	1935	岡山県津山市	津山市建設、受信機のみ貸付			*
4 戸畑市八幡神社境内	No.373	昭和10	1935	福岡県北九州市(旧戸畑市)	戸畑市八幡神社社務所建設、受信機寄贈			*
5 松山市城山公園	No.348	昭和11	1936	愛媛県松山市	松山市建設、受信機のみ提供			*
6 下関市赤間宮境内	No.318	昭和11	1936	山口県下関市	関門講演会建設、受信機寄贈			*
7 明石市中崎遊園地	No.235	昭和12	1937	兵庫県明石市	明石市建設(明石市役所勸業課職員興治一男)、受信機寄贈			*、[柴田2013]
8 尾崎市庄下川畔公園	No.234	昭和12	1937	兵庫県尾崎市	尾崎市が塔本体を設置、受信機は大阪放送局が寄贈			*、[吉井2008]
9 東京市品川聖蹟公園	No.135	昭和13	1938	東京都品川区	日の丸奉仕団	銘板「寄贈 日の丸奉仕団」	1938年公園開園	**
10 大阪府大手前公園	No.209	昭和13	1938	大阪府大阪市	大阪中央放送局			大阪府公文書館所蔵「寄附関係書類」
11 岡山市大藤公園	No.287	昭和14	1939	岡山県岡山市			1939年竣工の区画整理の竣工記念碑とともに建設	**
12 浦和市調宮公園	No.126	昭和15	1940	埼玉県さいたま市	日本放送協会	銘板「寄贈 社団法人日本放送協会」		**
13 神戸市再度山公園	No.242	昭和15	1940	兵庫県神戸市			隣に国旗掲揚台あり	**
14 名古屋市道徳公園	No.176	昭和15	1940	愛知県名古屋			横に国旗掲揚台あり	**
15 大阪府香里成田山公園	No.232	昭和15	1940	大阪府寝屋川市	嶋村保穂、智恵子	銘板「紀元二千六百年記念」「昭和拾五年拾壹月拾日」「大阪府北河内郡友呂岐村平地嶋村保穂 同智恵子」	嶋村保穂は、「大阪教育治療院」建設者。	**
16 〔小松原公園ラジオ塔〕		昭和15	1940	京都府京都市		銘板「紀元二千六百年記念建設 心身錬成」		**
17 〔萩児童公園ラジオ塔〕		昭和16	1941	京都府京都市		銘板「紀元二千六百年建之」「世話人 平口教馬、天野佐七寄付者 齋藤進、関貞造、岡本邦二郎、塚本信一、伊藤弘」		***
18 〔紫野柳公園ラジオ塔〕		昭和16	1941	京都府京都市			兼国旗掲揚台	**
19 〔中之島公園ラジオ塔〕		昭和16	1941	大阪府大阪市			「昭和初期の区画整理で誕生した公園」に設置([一幡2014])、近くに区画整理の竣工記念碑がある	**
20 岡山市上伊福津倉町上伊福西公園	No.296	昭和16	1941	岡山県岡山市			現大和公園 [図師ほか2019]	[図師ほか2019]
21 布施市小坂公園	No.221	昭和16	1941	大阪府東大阪市	小坂第一土地区画整理組合	銘板「竣工記念」「皇紀二千六百年」		**
22 〔志賀公園ラジオ塔〕		昭和17	1942	愛知県名古屋	西志賀土地区画整理組合	銘板「贈 西志賀土地区画整理組合」		**

注) 〇内は、[一幡2014] [一幡2017] 記載の名称。* は『ラジオ年鑑』、** は [一幡2017]、*** は [一幡2014]。

半のラジオ塔建設は、①、②、③、④のいずれかのパターンで建設された。多くの場合、個人や自治体、各団体がラジオ塔建設を計画し、ラジオ塔本体を設置、受信機を各放送局が貸し付ける、あるいは寄贈するというパターンで建設されたようである。兵庫県明石市では、市による熱心な誘致活動があった「神戸新聞明石総局 一九七九、柴田 二〇一三」。

異なるパターンがみられるようになるのは、一九三九年（昭和一四）以降である。まず注目したいのは、岡山市大藤公園ラジオ塔（No.287）である。一幡公平氏によれば、大藤公園ラジオ塔は移転して、現在は同市桑田公園内にある。桑田公園ラジオ塔は、「区画整理の竣工記念碑と合体した不思議な塔」である。区画整理によって大藤公園と桑田公園ができた。ラジオ塔は区画整理事業の完成を記念して大藤公園に建設されたが、現在大藤公園は駐車場となり、ラジオ塔は桑田公園に移設された「一幡 二〇一七」。

おなじく、区画整理事業によって一九四〇年（昭和一五）にできた上伊福西公園（岡山市）にもラジオ塔が現存する。上伊福西公園ラジオ塔（No.296）は、『ラジオ年鑑』（昭和一八年）に記載があることから、昭和一六年度中に少なくとも建設が計画されていたものと考えられる。ラジオ塔と区画整理事業との関連を示す史料はみあたらないが、公園の設置経緯やラジオ塔の建設年代から考えて、無関係とはいえないだろう。

愛知県名古屋市の志賀公園ラジオ塔は、一九四二年（昭和一七）の建設で、『ラジオ年鑑』未掲載のラジオ塔である。背面下部の銘板に「贈 西志賀土地区画整理組合」とあることから「一幡 二〇一七」、土地区画整理事業の竣工記念として建設されたことは明らかである。

このように、一九三九年（昭和一四）以降、土地区画整理事業の竣工記念碑としてラジオ塔が建設されるパターンがあった。一九三〇年代は、戦前におけ

る郊外の土地区画整理事業の最盛期であった「石田 一九八六」。

ところで、一九四〇年（昭和一五）は神武天皇即位から二六〇〇年にあたるとして、それを祝したさまざまな記念事業が全国で実施された。各地の公園や神社の境内などには、二六〇〇年記念碑が建設された。国旗掲揚台と一体の記念碑がよく知られるが、ラジオ塔と一体の皇紀二六〇〇年記念碑も建設された。

大阪府寝屋川市の成田山大阪別院明王院ラジオ塔（No.232）は、ラジオ塔正面の銘板に「奉納 紀元二千六百年記念」とある。塔側面にはそれぞれ「昭和十五年拾壹月拾日」、「大阪府北河内郡友呂岐村平池 嶋村保穂 同智恵子」の銘板があり、このラジオ塔が、皇紀二六〇〇年を記念して一九四〇年（昭和一五）一月一日、北河内郡友呂岐村（現寝屋川市）の嶋村保穂・智恵子夫妻の寄付によって建設されたことがうかがえる。嶋村保穂は、大正時代に私立大阪教育治療院（島村塾）という児童福祉施設を設立した障害児教育の専門家である「一幡 二〇一七、戸崎 一九九二」。

おなじく一九四〇年（昭和一五）建設の京都市小松原公園ラジオ塔正面の銘板には「紀元二千六百年記念建設 心身錬成」とある。一九四一年（昭和一六）建設の京都市萩児童公園ラジオ塔の銘板には、ラジオ塔建設の世話人二名・寄付者五名の名前とともに「紀元二千六百年建之」とある。いずれも皇紀二六〇〇年記念事業の一環として建設されたとみてよいだろう（いずれも『ラジオ年鑑』未掲載のラジオ塔）。

表5には掲載していないが、『NHK金沢放送局「50年のあゆみ」「金沢放送局開局50周年記念事務局 一九八一」によると、石川県鳳至郡輪島町役場前（No.147）、同能美郡小松町芦城公園（No.148）、同江沼郡山中町総湯前（No.149）、同石川郡松任町蕪城公園（おかりや公園、No.150）のラジオ塔は、皇紀二六〇〇年



写真3 東大阪市大和公園ラジオ塔（撮影：人見佐知子）

を祝して設置された。

以上みてきたように、一九三九年（昭和一四）以降のラジオ塔建設第二ブームの背景には、土地区画整理事業竣工の記念碑としてラジオ塔が建設される場合と、皇紀二六〇〇年記念事業の一環としてラジオ塔が建設される場合があった。そして、ときには、土地区画整理事業に関連する記念碑と皇紀二六〇〇年記念事業があわさってラジオ塔が建設されることもあった。布施市小坂公園ラジオ塔（No.221、現東大阪市大和公園）がそれである（写真3）。

なお、表5からは、上述した七パターン以外に、国旗掲揚台を併設するラジオ塔（東海市品川聖蹟公園、愛知県名古屋市道徳公園、兵庫県神戸市諏訪山公園、京都市紫野柳公園、大阪市中之島公園）が少なくないことがみてとれる。このことは、第二次ラジオ塔建設ブームが軍国主義と無関係ではないことを示している。

表6は、ラジオ塔の設置場所について年代ごとに分類して整理したものである。全期間を通じて多いのは公園・広場などで、次に寺社境内がある。これは、ラジオの普及をめざして「全国主要なる公園、広場」など「當時多数人の蝟集する所」（史料3）に設置されたという、ラジオ塔の本来の趣旨と関連しているのだろう。注目したいのは、役場前、公会堂前、郵便局前、

物産陳列所前、派出所前などならかの公共施設前に設置されたラジオ塔である。これらは、第一次建設ブームではほとんどみられなかった、第二次建設ブームに特徴的な傾向である。前述したように山形県では、各町役場前にラジオ塔が設置（計画）された（No.98）。小学校（国民学校）に設置されたものもある。『ラジオ年鑑』未掲載で建設年不明ながら、御射山公園ラジオ塔（京都市）は、もともと日彰小学校の校庭にあった「一幡二〇一七」。公共施設に付属して設置・計画されたラジオ塔に期待されたのは、人々に娯楽や教養を提供することではなく、ラジオ放送をつうじたプロパガンダとしての役割であっただろう。

佐藤紘司氏によれば、アジア・太平洋戦争がはじまると、時局に対応するため全国市区役所や警察署、通信官署などを拡充するほか三〇〇ヶ所にラジオ塔を設けることが計画された。しかし、戦時下の資材不足な

表6 ラジオ塔の設置場所

	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	合計
公園・広場	1	2	20	14	1	3	3	4	8	78	81	42	257
寺社境内			1	2		1	1			17	39	19	80
駅前（渡船場などを含む）			1							5	9	11	26
公会堂前										1	6	4	11
役場前										4	19	17	40
郵便局前										1		2	3
練兵場											1		1
その他公共施設前（物産館前、市場、商工会議所前、派出所前など）			1							1	5	6	13
学校（国民学校）											1	3	4
その他（所在地のみ）										1	22	7	30
合計	1	2	23	16	1	4	4	4	8	108	183	111	465

どの影響から、建設予定数を達成することは困難となり、一九四二年（昭和一七）以降、ラジオ塔ではない「ラジオ聴取施設」を強化する方針に移行していく。とくに、地方の農村や漁村に十分に施設するため、各町村役場（三一五〇ヶ所）、警察官署（一九三五ヶ所）にたいして、日本放送協会は交流式受信機の購入を斡旋した。一九四三年（昭和一八）には、「ラジオ聴取施設」設置のための施設費の一部を助成した。その結果、施設数は二一九ヶ所を数えたという「佐藤 二〇二」。

「放送用私設無線電話規則」は、一九三一年（昭和六）の制定以降、その第一一条により、感化院（少年教護院）・矯正院、廃兵院（傷兵院）・養老院・孤児院・病院などの救護施設、盲学校、刑務所などを対象に、収容者の「慰安」や「教養」「教育」のため聴取料を免除することとしていたが、一九三七年（昭和一二）以降、その対象を「ラヂオ体操ノ会」や市区役所、町村役場、警察署などの公共施設へも一挙に拡大した（『ラヂオ年鑑』昭和一六年、二八一～二八三頁）。国策の推進のため、ラジオが必要不可欠と考えられたからであろう。各家庭にもラジオは普及していく。受信機やスピーカーが金属回収の対象となったことなどもあいまって、戦時下にあつて「街頭ラジオ」としてのラジオ塔は急速にその役割を終えていくのである。

三 ラジオ塔の意匠について

1 『ラヂオ年鑑』による分類

ここでは、ラジオ塔の形態（意匠）について検討する。ラジオ塔の形態については、これまで佐藤紘司氏が分類を試みている「佐藤 二〇二」。佐藤氏作成の「表2」ラヂオ塔の意匠一覧」には該当するラジオ塔の写真も掲載されており貴重であるが、残念ながらそれらがどのラジオ塔であるか明記され

ていなかったり、出典が明らかでなかったりと不備が少なくない。そこで本章は、佐藤氏の論考を適宜参照しながら、『ラヂオ年鑑』の記載にもとづいてラジオ塔の形態を再検討する。

ここで検討するのは、おもに一九三七年（昭和一二）以前に建設されたラジオ塔である。『ラヂオ年鑑』（昭和一三年）以前には、形態と材質、高さについての記載がある。『ラヂオ年鑑』の記載を整理し、表7を作成した。これによるとラジオ塔の形態として以下のものがある。

- ① 神燈型
- ② 凸型
- ③ 角燈籠型
- ④ 燈籠型
- ⑤ 洋型
- ⑥ 春日燈籠型
- ⑦ ポンポリ型
- ⑧ 古代燈籠型
- ⑨ 箱型
- ⑩ ミゼット型
- ⑪ 軍艦マスト型
- ⑫ 木造燈籠型
- ⑬ 石燈籠型

一見して、燈籠型と名のつく型が多く、佐藤氏はそれらを燈籠型の派生型として整理している。また、佐藤氏が軍艦マスト型の例として掲げているラジオ塔の写真は、札幌市中央公園ラジオ塔（写真4）であるが、『ラヂオ年鑑』はそれを凸型と記している。このことから、さしあたり②凸型と⑪軍艦マスト型

表7 ラジオ塔の意匠

都道府県	『ラジオ年鑑』記載の名称	現在の市町村名	現在の立地	設置年	西暦	支部	形態	材質	高さ (m)
1 北海道	札幌市大通道通地 (札幌市大通西三)	札幌市中央区	大通西3丁目	昭和7年	1932	札幌	神燈型	鉄筋コンクリート	3.6
2 北海道	小樽市小樽公園	小樽市	小樽公園	昭和7年	1932	札幌	神燈型	鉄筋コンクリート	3.6
3 北海道	旭川市常磐公園	旭川市	常磐公園	昭和7年	1932	札幌	神燈型	鉄筋コンクリート	3.6
4 北海道	函館市函館駅前	函館市	JR函館駅	昭和7年	1932	札幌	神燈型	鉄筋コンクリート	3.6
5 北海道	亀田郡七飯村大沼公園	亀田郡七飯町	大沼公園	昭和7年	1932	札幌	神燈型	鉄筋コンクリート	3.6
6 北海道	札幌市中島公園	札幌市中央区	中島公園	昭和8年	1933	札幌	凸型(→軍艦マスト型)	鉄筋コンクリート、レンガ作り	4.2
7 北海道	札幌市外円山公園 (円山公園)	札幌市中央区	円山公園	昭和11年	1936	札幌	神燈型	木柱	3.6
8 北海道	函館市函館公園	函館市	函館公園	昭和13年	1938	札幌	神燈型	鉄筋コンクリート	3.6
9 岩手県	盛岡市物産館前	盛岡市	盛岡公園	昭和7年	1932	仙台	角燈籠型	基礎コンクリート	2.8
10 秋田県	秋田市千秋公園	秋田市	千秋公園	昭和7年	1932	仙台	角燈籠型	基礎コンクリート	2.8
11 山形県	山形市雁島公園	山形市	山形市役所庁舎の西付近	昭和7年	1932	仙台	角燈籠型	基礎コンクリート	2.8
12 福島県	福島市中央公園	福島市	福島市中央駐車場	昭和7年	1932	仙台	角燈籠型	基礎コンクリート	2.8
13 群馬県	前橋市前橋公園	前橋市	前橋市中央児童遊園 るなほあく	昭和8年	1933	直轄	燈籠型	鉄筋コンクリート	4.7
14 東京都	東京市煙田公園	墨田区	隅田公園	昭和7年	1932	直轄	洋型	鉄筋コンクリート	5
15 東京都	東京市愛宕公園	港区	愛宕神社	昭和12年	1937	直轄	燈籠型	鉄筋コンクリート	3
16 東京都	東京市佐久間公園	千代田区	佐久間公園	昭和12年	1937	直轄	洋型	鉄筋コンクリート	3.6
17 神奈川県	横浜市野毛山公園	横浜市西区	野毛山公園	昭和7年	1932	直轄	燈籠型	鉄筋コンクリート	4.7
18 新潟県	新潟市白山公園	新潟市中央区	白山公園	昭和7年	1932	直轄	燈籠型	コンクリート	3.6
19 長野県	長野市城山公園	長野市	城山公園	昭和8年	1933	直轄	洋型	鉄筋コンクリート	4.7
20 静岡県	静岡市清水公園	静岡市葵区	清水山公園	昭和8年	1933	直轄	燈籠型	鉄筋コンクリート	5
21 石川県	金沢市兼六公園	金沢市	兼六園	昭和8年	1933	名古屋	春日燈籠型	基礎鉄筋コンクリート、木製、屋根 銅葺	
22 福井県	福井市佐佳枝神社	福井市	佐佳枝神社	昭和8年	1933	名古屋	春日燈籠型	基礎鉄筋コンクリート、上部木製	2.5
23 岐阜県	岐阜市岐阜公園	岐阜市	岐阜公園	昭和8年	1933	名古屋	ボンボリ型(→神燈型)	木造	3.6
24 愛知県	名古屋市鶴舞公園	名古屋市昭和区	鶴舞公園	昭和8年	1933	名古屋	古代燈籠型(→燈籠型)	鉄筋コンクリート	3.9
25 京都府	京都市円山公園	京都市東山区	円山公園	昭和7年	1932	大阪	角燈籠型	鉄筋コンクリート、上部花崗岩	3.5
26 京都府	京都市船岡山公園 (京都市船岡公園)	京都市北区	船岡山公園	昭和10年	1935	大阪	箱型	鉄筋	3
27 大阪府	大阪市天王寺公園	大阪市天王寺区	天王寺公園	昭和5年	1930	大阪	角燈籠型	鉄筋コンクリート、栗石作り	3.7
28 大阪府	大阪市住吉公園	大阪市住之江区	住吉公園	昭和8年	1933	大阪	角燈籠型	人造研出磨、上部紫雲石	3.5
29 大阪府	堺市大浜公園	堺市堺区	大浜公園	昭和8年	1933	大阪	箱型	鉄筋、栗石作り	2.9
30 兵庫県	神戸市湊川公園	神戸市兵庫区	湊川公園	昭和6年	1931	大阪	ミゼット型	鉄筋コンクリート	4.5

31	兵庫県	尼崎市庄下川畔公園	尼崎市	尼崎城址公園、市立 尼崎中央図書館付近	昭和12年	1937	大阪	角燈籠型	鉄筋コンクリート	3.9
32	兵庫県	明石市中崎遊園地	明石市	中崎遊園地	昭和12年	1937	大阪	角燈籠型	鉄筋コンクリート	3.9
33	奈良県	奈良市奈良公園	奈良市	奈良公園猿沢池の畔	昭和6年	1931	大阪	春日燈籠型	木製	3.7
34	和歌山県	和歌山市和歌山公園	和歌山市	和歌山城公園	昭和8年	1933	大阪	角燈籠型	鉄筋コンクリート、栗石目濃砂利作 り	3.5
35	岡山県	津山市鶴山公園	津山市	鶴山公園	昭和10年	1935	大阪	角燈籠型	木骨コンクリート、外部リシン塗ク リム色	2.4
36	徳島県	徳島市徳島公園	徳島市	徳島中央公園	昭和8年	1933	大阪	箱型(→燈籠型)	鉄筋、栗石作り	2.9
37	香川県	香川県三豊郡仁尾町遊園地	三豊市	塩釜神社	昭和10年	1935	大阪	角燈籠型		2.9
38	鳥取県	鳥取市久松公園	鳥取市	久松公園	昭和8年	1933	大阪	箱型	鉄筋、栗石作り	2.9
39	島根県	松江市城山公園	松江市	松江城山公園	昭和8年	1933	広島	燈籠型	鉄筋コンクリート	3
40	広島県	呉市二河公園	呉市	二河公園	昭和7年	1932	広島	燈籠型	鉄筋コンクリート	3
41	広島県	広島市招魂社外苑	広島市中区	広島市青少年センター	昭和8年	1933	広島	燈籠型		4.4
42	山口県	下関市赤間宮境内	下関市	赤間神社	昭和11年	1936	広島	燈籠型	花崗石	3.3
43	愛媛県	松山市城山公園	松山市	城山公園	昭和11年	1936	広島	燈籠型	鉄筋コンクリート	4.5
44	高知県	高知市城山公園	高知市	高知公園	昭和8年	1933	広島	燈籠型	鉄筋コンクリート	3
45	福岡県	福岡市記念公園	福岡市博多区	中島公園	昭和7年	1932	熊本	軍艦マスト型		5.9
46	福岡県	福岡市東公園	福岡市博多区	東公園	昭和7年	1932	熊本	燈籠型	鉄筋コンクリート、石	4.5
47	福岡県	福岡市大濠公園	福岡市中央区	大濠公園	昭和7年	1932	熊本	軍艦マスト型		5.9
48	福岡県	小倉市勝山遊覧地(小倉市勝山 遊園地)	北九州市小倉北区	勝山公園	昭和7年	1932	熊本	箱型	木造	3
49	福岡県	八幡市宮田遊園地	北九州市八幡東区		昭和7年	1932	熊本	燈籠型	木造	3
50	福岡県	八幡市豊山公園	北九州市八幡東区	豊山神社	昭和7年	1932	熊本	燈籠型	木造	3
51	福岡県	門司市老松公園	北九州市門司区	老松公園	昭和7年	1932	熊本	燈籠型	木造	3
52	福岡県	若松市蛭子神社境内	北九州市若松区	若松恵比須神社?	昭和7年	1932	熊本	燈籠型	木造	3
53	福岡県	戸畑市八幡神社境内	北九州市戸畑区	飛幡八幡宮	昭和10年	1935	熊本	燈籠型		
54	長崎県	長崎市諏訪公園	長崎市	長崎公園	昭和11年	1936	熊本	春日燈籠型(→神燈型)	鉄筋コンクリート	3.6
55	熊本県	熊本市花畑公園	熊本市中央区	花畑公園	昭和7年	1932	熊本	燈籠型	鉄筋コンクリート、石	4.5

注) 支部は、設置年時点のもの。



写真4 「軍艦マスト型」の札幌市中島公園ラジオ塔（出典：『ラヂオ年鑑』昭和9年）



写真5 「ボンボリ型」の岐阜公園ラジオ塔（出典：『ラヂオの日本』16巻5号、1933年5月）



写真6 「神燈型」の札幌市大通道通地ラジオ塔（出典：『ラヂオの日本』17巻2号、1933年8月）

佐藤氏が「表2」ラヂオ塔の意匠一覧に「洋型」として掲載する写真は、出典は不明であるが「JOK」のコールサインが確認できるので、東京市隅田公園、同佐久間公園、長野市城山公園のいずれかであろう。別に、隅田公園ラジオ塔の写真も掲載されている。これを見るかぎり、洋型は軍艦マスト型（あるいは凸型）に近いように思われるが、判断しかねたため、③軍艦マスト型とは別に④洋型をおいた。

『ラヂオ年鑑』記載の形態は、いくつか修正が必要だと思われる点がある。長崎市諏訪公園（現長崎公園）ラジオ塔（現存）は、『ラジ



写真7 金沢市兼六園ラジオ塔（撮影：人見佐知子）

- ① 燈籠型（角燈籠型、春日燈籠型、古代燈籠型、木造燈籠型、石燈籠型）
- ② 神燈型（ボンボリ型）
- ③ 軍艦マスト型（凸型）
- ④ 洋型
- ⑤ 箱型
- ⑥ ミゼット型

は同型のものともみなしておきたい。また佐藤氏は、⑦ボンボリ型（写真5）を①神燈型（写真6）の派生型としている「佐藤 二〇一二」。

以上をふまえると、さしあたり、以下の六つに整理が可能である。

表8 形態別ラジオ塔基数

形態	基数	割合
燈籠型	35	63.6%
神燈型	9	16.4%
箱型	4	7.3%
軍艦マスト型	3	5.5%
洋型	3	5.5%
ミゼット型	1	1.8%
総計	55	100.0%

『才年鑑』の記載では春日燈籠型とされる。同じく春日燈籠型とされる金沢市兼六園（写真7）や奈良公園（写真8）のラジオ塔を、一幡公平氏撮影の諏訪公園ラジオ塔の写真「一幡 二〇一七」で照合すると、諏訪公園ラジオ塔は春日燈籠型ではなく神燈型が適当なように思われる。また徳島市徳島公園（現徳島中央公園）ラジオ塔は箱型とされているが、同じく「一幡 二〇一七」で現存のラジオ塔を確認すると燈籠型であろう（箱型と燈籠型の区別は後述）。



写真8 奈良公園ラジオ塔（出典：『ラヂオ年鑑』昭和7年）

上記をふまえて表8に、形態別のラジオ塔基数をかかげた。これによると、燈籠型が圧倒的に多く、全体の六割を超えている。神燈型がそれにつづく。ミゼット型と分類されるのは、兵庫県神戸市の湊川公園ラジオ塔だけである。だとすると佐藤氏がミゼット型の例として掲載している写真が、湊川公園のラジオ塔だろう「佐藤 二〇一一」。写真の出版については、今回の調査では特定できなかった。



写真9 鶴舞公園ラジオ塔（出典：『ラヂオの日本』16巻5号、1933年5月）

筋コンクリート」とあるため、他支部の燈籠型とデザインにおいてどのような違いがあったのかは分からない。

『ラヂオの日本』は、名古屋鶴舞公園のラジオ塔を「あくび型燈籠」（一六巻六号、一九三三年六月）あるいは「古代型燈籠形」（一七巻三号、一九三三年九月）とよんでいる（写真9）。おなじく『ラヂオの日本』は、金沢兼六園のラジオ塔を「古代燈籠型」（一七巻一号、一九三三年七月）あるいは「春日燈籠形」（二七巻三号、一九三三年九月）とよんでいる。

仙台支部は「角燈籠型」の同一モデルで建設されたようである（写真10）。仙台支部が採用した「ラジオ塔設計図」は、『ラヂオ年鑑』（昭和八年）に掲載がある（図3）。天王寺公園や京都市円山公園、尼崎市庄下川畔公園ラジオ塔（写真11）なども「角燈籠型」とされる。寸胴の竿の上部に笠や火袋に相当する部分が置かれていることが特徴であろう。笠が無いと「箱型」となる

ところで、燈籠型に総称されるラジオ塔の形態名はじつにバラエティにとんでいる。その理由は、実際のラジオ塔の形態が多様であったことにくわえて、形態名は各支部によって独自に判断され、一定の呼称がなかったためと考えられる。たとえば、「石燈籠型」「木造燈籠型」のように、材質による分類をおこなっているのは熊本支部である。ただし、石燈籠型の材質は「鉄

(写真12)。「燈籠型」とされる前橋市前橋公園(現るなばあく)や横浜市野毛山公園のラジオ塔(いずれも現存)は、竿に相当する部分の裾広がりのデザインに大きな違いが見うけられる。だとすると、「角燈籠型」と記載された香川県三豊郡仁尾町遊園地ラジオ塔(写真13)は、「燈籠型」が適当であるよう



写真11 尼崎市庄下川畔公園ラジオ塔。庄下遊園地を写した写真にラジオ塔が写り込んでいた(出典: 尼崎市広報課写真スクラップブック「昔の写真(昭和・不明分)2」、尼崎市立地域研究史料館所蔵)



写真10 「角燈籠型」の秋田市千秋公園ラジオ塔(出典: 『秋田魁新報』1932年11月14日)

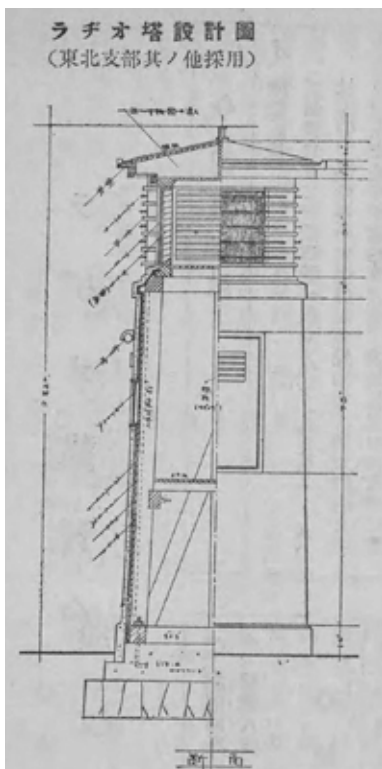


図3 仙台支部その他が採用したラジオ塔設計図



写真13 香川県三豊郡仁尾町遊園地(現三豊市塩釜神社)ラジオ塔(出典: 『ラジオ年鑑』昭和11年)



写真12 「箱型」の船岡山公園ラジオ塔(撮影: 佐々木華)

に思われる。

2 ラジオ塔の意匠とその地域的特徴

一九三二年（昭和七）、「聴取加入数百万突破記念施設」として全国にラジオ塔を建設することが計画されたとき、塔の設計は専門家に委嘱された（史料3）。設計案として十数種が考案されたという。各支部は、日本放送協会が提案したデザイン案のうちから、それぞれ「環境に適合する」ものを選んだ。そのため、ラジオ塔の意匠には各支部の意向が反映されたと思われる地域的な特徴がうかがえる。表9は、支部ごとのラジオ塔の意匠（形態）について整理したものである。

燈籠型は全国に分布している。そのほとんどは、燈籠型あるいは角燈籠型とされるものである。仙台支部は「角燈籠型」の同一モデルが採用されたようである（前出図3）。広島支部は、いずれも燈籠型であるが、ラジオ塔によって高さは異なるため、同一モデルではなかったと思われる。大半は鉄筋コンクリート製であるが、「関門講演会」が建設したという下関市の赤間神

表9 形態別・支部別ラジオ塔基数

	札幌	仙台	直轄	名古屋	大阪	広島	熊本	総計
燈籠型		4	5	3	10	6	7	35
神燈型	7			1			1	9
箱型					3		1	4
軍艦マスト型	1						2	3
洋型			3					3
ミゼット型					1			1
総計	8	4	8	4	14	6	11	55

注) 支部は、設置年時点のもの。

宮ラジオ塔は、花崗石でつくられた（材質については後述）。岡山県津山市が建設した鶴山公園ラジオ塔は、木骨コンクリート製でオーソドックスな角燈籠型であるが、リシン塗装を施したクリーム色という特徴があった。いずれも放送局が建設した先行するラジオ塔との差異化が意識されたのかもしれない。名古屋支部のラジオ塔は、春日燈籠型、古代燈籠型、ボンボリ型など歴史や伝統を意識しているようである。その理由は、兼六園や鶴舞公園といった立地にあった。『ラヂオの日本』（一七巻一号、一九三三年七月）は、兼六園ラジオ塔の完成に寄せて次のように述べている。

史料4

金沢のラヂオ塔完成

聴取者百万突破記念施設として計画された北陸のラヂオ塔は、天下の名園たる兼六園を好適地として設置さるゝ事となつて居たが、同所が史蹟名称としての指定地であり、周囲との調和を保ち風致を害せざる様、ラヂオ塔の構造や其設置地点に就き懇談を重ねた末、五月早々工を起し同十五日完成して同日から受信公開の運びとなつた。外形は写真の通り古代燈籠型木造で高さ十二尺、屋根の径六尺余あり、基礎は御影石を用ひた。緑滴る若葉の蔭に其クラシカルな落着いた姿を見せて名園に一異彩を加へ、静かな快いラヂオの音は訪客の足を停め、しばし空からの訪れを樂ましめるに充分であらう。

（『ラヂオの日本』一七巻一号、一九三三年七月）

兼六園が史蹟名勝として名高いことから、周囲との調和を保ち「風致」を害さないよう、ラジオ塔のデザインや兼六園のどこに設置するかについて懇談が

重ねられたという。「古代燈籠型」とされた「クラシカルな落ち着いた姿」は、先行して同じく名勝として名高い奈良公園に設置された「春日燈籠型」のラジオ塔を十分に意識したものであっただろう。

名古屋市鶴舞公園の古代燈籠型とされるラジオ塔は、「意匠を雪見石燈籠に型取」つたもので（『ラジオの日本』一六巻五号、一九三三年五月）、その格好から「あくび型燈籠」とも称されている（前出写真9）。『ラジオの日本』（一六巻六号、一九三三年六月）に、鶴舞公園ラジオ塔の意匠についての詳細な報告があるので、ここに引用しておく。

史料5

C K名古屋のラジオ塔を解剖すれば

前号でも一寸紹介した名古屋市鶴舞公園胡蝶ヶ池畔のラジオ塔は、去る三月末工事万端完了し優雅なスタイルを花の春の装ひふさわしくデビューした。スマートなその容姿、滴る様な明朗色、洩れ出る音色の妙へなさは行く人の心を惜しみなく奪つて止まない。ミス、ラジオ塔！ その正体はどんなもの？ 塔は鉄筋コンクリート、あくび型燈籠を象つたもので全長一丈一尺、天蓋の最大直径四尺五寸、全部重量七百五十貫と云ふ堂々たるもの。

天蓋の中に拡声器（R C A製、A Cダイナミックスピーカー）を装備して音が四方へ一様に伝播する様反對装置をほどこし、音質を損はぬため緩衝装置が設けられてゐる。

受信機、増幅器は附近の茶屋に設置し、共に交流電源を使用しこの操作は茶屋で行ふ。

受信機増幅の配線図は別図に示す通り（図略）高周波増幅にU Y二二四二

段、検波はU Y二二四、アノード検波、低周波一段目にペントードF U Y二四七B、終段はU X二四五プッシュアップ増幅にて出力約四ワット。

別にレコード演奏の場合のピックアップ。音声増幅の場合のマイクロフォン増幅装置としてU Y二二四一ケを使用し任意切換し得らる。マイクロフォンの励磁電流は増幅器の整流電流より求め、別に電池を要せざる様考案されてゐる。その他二重放送実施の暁にはスキッチにて簡単に第一放送と第二放送とを切り換へし得る事。音声に歪みのない様蓄電器容量や抵抗の選択に意が注がれてゐる。

尚塔には掛燈籠を付け、これが灯はパイロット、ランプを兼ねてゐる。

（『ラジオの日本』一六巻六号、一九三三年六月）

名古屋市鶴舞公園胡蝶ヶ池畔の「新芽濃き柳、桜に囲まれた絶好の地点に設置」（『ラジオの日本』一六巻五号、一九三三年五月）⁹⁾されたラジオ塔は「優雅なスタイル」で、「スマートなその容姿、滴る様な明朗色」、ラジオ塔から「洩れ出る音色の妙へなさは」、公園を歩き交う人々の心を奪つてやまないという。ここでも、ラジオ塔と周囲の環境との調和は強く意識されている。「ミス、ラジオ塔！」と、ラジオ塔が女性に形容されていることも興味深い。高さ約三・三メートル、直径約一・四メートルで、重量約二八〇〇キログラムという、「堂々たる」姿であった。塔には、掛燈籠がとりつけられ、それがパイロット・ランプの役目を果たしているという。写真をみると、たしかに竿の部分に掛燈籠らしいものが確認できる（前出写真9）。

神燈型は、札幌支部を中心に採用されている。「聴取加入数百万突破記念施設」として建設されたラジオ塔は、すべて神燈型である。凸型（軍艦マスト型）の中島公園ラジオ塔は、「聴取加入数百万突破記念施設」と同時期に建設

されたラジオ塔であるが、「聴取加入数百万突破記念施設」リストにはなく（前述）、その独自性が凸型という形態となつてあらわれたのかもしれない。

洋型とされるラジオ塔は、直轄管内が中心である。箱型は、西日本の大阪・熊本各支部が採用している。ミゼット型は、前述のとおり、大阪支部（神戸市湊川公園ラジオ塔）のみの独自性の高いデザインである。

熊本支部管下で建設されたラジオ塔のデザインは、軍艦マスト型、燈籠型、箱型、神燈型と、他の支部に比較してバラエティにとんでいる。名古屋支部のラジオ塔と同様に、ラジオ塔が設置される場所にたいする配慮の結果かもしれない。

3 ラジオ塔とモダニズム建築

さいごに、ラジオ塔の材質についても多少の分析をくわえておきたい。表10をご覧いただきたい。ラジオ塔の材質は、いずれの形態であっても大半が鉄筋コンクリート造である。木骨コンクリート（岡山県津山市鶴山公園）、単にコンクリートと記載されているもの（新潟市白山公園）、基礎に鉄筋コンクリートを使用し、屋根など上部が木造であるもの（いずれも名古屋支部のラジオ塔が採用）、鉄筋コンクリートと栗石作りの組み合わせ（大阪市天王寺公

表10 支部別ラジオ塔の材質

	鉄筋コンクリート*	木製	花崗石	人造研出磨、上部紫雲石	不明	総計
札幌	7	1				8
仙台	4					4
直轄	8					8
名古屋	3	1				4
大阪	11	1		1	1	14
広島	4		1		1	6
熊本	3	5			3	11
総計	40	8	1	1	5	55

* 鉄筋コンクリートとレンガ、栗石、花崗岩などとの組み合わせをふくむ。

園、和歌山市和歌山公園）をくわえると、七割以上のラジオ塔の材質はコンクリートである。

一九三二年（昭和七）の『セメント界彙報』は、ラジオ塔がコンクリートで制作されたことについて、コンクリートの用途の広がりとして高く評価している。

史料6

ラジオの普及と相俟つて斯様な面白い試も行なはれるわけである。このうち一は京都の円山公園にあるもの、他は天王寺公園にあるもので共にコンクリート用途の一断面を見せてあることである。

（『セメント界彙報』二九一号、一九三二年九月）

一九三〇年代は、モダニズム建築として知られるコンクリート造りの建築物が多く作られた時代であった。コンクリート製のラジオ塔に、一九三〇年代のコンクリート系のモダニズム建築との関連がうかがえるのは興味深い。『日刊



写真14 再建前の住吉公園ラジオ塔（出典：[吉井2008]）

ラジオ新聞^⑩（一九三〇年六月六日）は、天王寺公園のラジオ塔を「スッキリしたモダンタイプの建物」とその特徴を形容している。

木造のラジオ塔は、燈籠型、神燈型、箱型においてみられる。木製は熊本支部において多く採用されている。

ユニークな建材を使用しているのは、一九三六年（昭和一一）に山口県下関市の赤間神宮境内に設立されたラジオ塔である。関門講演会が建設したというラジオ塔は、花崗石を建材に使用したようである。京都市円山公園のラジオ塔でも、上部に花崗岩が使用された。

一九三三年（昭和八）に大阪市住吉公園に建設されたラジオ塔は、人造石（「人造研出磨」とあるが詳細は不明）で作られ、上部に「紫雲石」が使われたという。現在、住吉公園にあるのは一九九五年（平成七）に再建されたラジオ塔であるが、もとのラジオ塔（写真14）とはずいぶん異なる形態となった。

また、「栗石作り」と書かれたラジオ塔が五基ある。「栗石」は、石材であるうか。全国初のラジオ塔である天王寺公園ラジオ塔は、鉄筋コンクリートに栗石を組み合わせたものであった。和歌山市和歌山公園のラジオ塔は、鉄筋コンクリートと「栗石目潰砂利」を組み合わせた。大阪府堺市大浜公園と徳島市徳島公園、鳥取市久松公園のラジオ塔は、「鉄筋栗石作り」であるという。すべて大阪支部管内のもので、天王寺公園のラジオ塔にならったのではないかと推測される。

ラジオ塔の意匠がもつ特徴について一幡公平氏は、前期と後期に分類できるという「二幡 二〇一七」。すなわち、「聴取加入数百万突破記念施設」として建設されたラジオ塔（とその前後のもの）と、昭和一〇年代（一九三五年以降）のラジオ塔である。前期のラジオ塔は、「塔本体が太く重厚な印象のものが多い」と、「装飾が施されたものもあつて華美な印象を受ける」。一方、後期の

ラジオ塔は、「簡素で実用的」なものが多いという。おおむね同意するが、厳密にいうと、「簡素で実用的」なラジオ塔が多く登場するのは、アジア・太平洋戦争開始前後のように思われる。現存する成田山大阪別院明王院や明石市中崎遊園地のラジオ塔など、一九三五年以降の建設であっても重厚で華美な印象のラジオ塔は少なくない。実のところラジオ塔が「簡素で実用的」なものとなっていくのは前述したラジオ塔設置の目的や設置主体の変化による影響が大きいように思われる。すなわち、広く一般の人々にラジオを聴取してもらうことが目的ではなく、また、土地区画整理や皇紀二六〇〇年記念事業などの記念碑的な意味合いでもなく、アジア・太平洋戦争の前後に国策によってラジオ塔の建設が推進されるようになったことが、ラジオ塔の意匠にも影響を与えたのではないだろうか。

おわりに

一九三〇年（昭和五）に大阪放送局が大阪市に寄付して天王寺公園に設置したラジオ塔は、たちまち人々の熱狂をあつめた。大阪放送局は、奈良、神戸、京都にもラジオ塔を建設した。一九三二年（昭和七）二月、全国のラジオ聴取加入数が一〇〇万人を突破すると、日本放送協会は「聴取加入数百万突破記念施設」を計画した。そのひとつが、「全国主要なる公園、広場」にラジオ塔を建設することであった。一九三二年から翌年にかけて、約四〇基のラジオ塔が建設された（第一次建設ブーム）。

ラジオ塔がユニークなデザイン性をそなえているのは、ラジオ塔を設置した各支部が周囲の景観との調和に配慮して、最適なデザインを選択したからである。多くは燈籠型の派生型であったが、伝統を意識した燈籠型、神燈型にたいして、軍艦マスト型、洋型、ミゼット型といった洋風のデザインもあった。コ

ンクリート造りのラジオ塔に、モダニズム建築との関連性がうかがえることも興味深い。

一九三〇年代後半には、第二次建設ブームがおとずれた。日本放送協会以外に自治体や個人がラジオ塔の建設を計画し、日本放送協会がラジオ受信機を貸与、寄付するかたちでひろまっていた。一九三九年（昭和一四）ごろから、区画整理事業の竣工記念碑として建設されたラジオ塔があらわれた。一九四〇年（昭和一五）になると、皇紀二六〇〇年記念事業の一環として建設されたラジオ塔もみられた。ときには、両者があわさってラジオ塔が建設されることもあった。設置主体が多様化したことで、ラジオ塔のデザインの多様性もひろがったと推察される。既設ラジオ塔との差異化を意識したことが、デザイン性を高めたのかもしれない。

この時期に建設されたラジオ塔のうち、役場や公会堂、物産陳列所、小学校など公共施設に関連する場所に設置されたものが注目される。国旗掲揚台と一体のラジオ塔がみられるようになるのもこの頃である。当該期のラジオ塔の建設が、戦時体制の強化という国策と不可分であったことがうかがえるからである。一九四〇年代に、「簡素で実用的」なラジオ塔が多くなるのは、こうしたラジオ塔設置の目的や設置主体の変化が少なからず影響していると考えられる。

ラジオ塔の建設数がピークをむかえたのは、各家庭にもラジオが急速に普及していく時期でもあった。受信機やスピーカーが金属回収の対象となったこともあいまって、ラジオ塔はその歴史的役割を急速に終えていくのである。

本稿がおもに分析の対象としたのは、『ラジオ年鑑』所収の「ラジオ塔施設一覧」から作成した「ラジオ塔一覧」（別表）である。第一章で述べたように、「ラジオ塔一覧」（別表）はさまざまな制約や限界をもつ。ラジオ塔の歴史をさ

らにひもとくためには、個別のラジオ塔にそくして実証を積み重ねていくことが必要であろう。⁽¹⁾ 本稿が、そのきつかけとなれば幸甚である。

〔注〕

(1) 『ラジオ年鑑』は、昭和一六年版までは「ラヂオ」、昭和一七年版以降は「ラジオ」と表記されているが、本稿では、史料の引用をのぞき原則として、「ラジオ」の表記を用いることとしたい。

(2) 『報告書』では、「富山放送局移動式」を「ラジオ塔一覧」に掲載していたが、今回の一覧からは除いた。

(3) 『報告書』所収の「ラジオ塔一覧」では、北海道の「深川町」と「深川町森元町」ラジオ塔を別のラジオ塔として掲載したが、設置年などから同一のラジオ塔とした。

(4) 『報告書』所収の「ラジオ塔一覧」では同一のラジオ塔とみなしていたが、本文中に述べた理由から、別のラジオ塔と判断した。

(5) 『ラジオ年鑑』は、時期によって事業報告の取り扱い期間が異なる。昭和七年版、昭和八年版は、前々年の一〇月から前年の九月までを取り扱う。昭和九年版から昭和一三年版は、前年分の事業報告書である。昭和一五年版以降は、前々年度（昭和一五年版の場合、昭和一三年四月から昭和一四年三月）の事業報告を掲載した。

(6) 『報告書』では、これらは設置年をすべて一九三九年（昭和一四）としていたが、本文中に述べた理由から一九四〇年（昭和一五）に修正した。

(7) ただし、『ラヂオ年鑑』（昭和一六年）は、一九三六年（昭和一一）建設として「八幡市豊山公園」ラジオ塔を掲載している。「八幡市」は、八幡市の誤植であろう。設置年も誤植の可能性がある。

- (8) 布施市小坂公園ラジオ塔を、現東大阪市大和公園ラジオ塔と判断した理由や同ラジオ塔設立の背景については、『報告書』をもとにした別稿を準備中である。
- (9) ちなみに同記事は、「ラヂオ塔受難」というタイトルで、鶴舞公園ラジオ塔が被った「受難」を報じている。「受難」というのは、この地域の「悪習慣」で、新しい石燈などが完成したときに、最初にその一片を剥ぎとったものはお金がたまるといふ迷信から、何者かによってラジオ塔の笠の部分の一部が剥がされてしまったことである。大して目立たないのでそのままにしてあるらしいが、それは状況を確認にきた名古屋放送局員を「吃驚」させたという。
- (10) ラジオ番組の紹介を主体とした日刊紙「日本放送協会 一九七七、宮川二〇一四」。
- (11) 個人ブログ「元島根県民のお部屋」は、『松陽新報』の記事から、松江市城山公園ラジオ塔が、『ラジオ年鑑』に記された一九三二年（昭和七）ではなく、翌年五月の建設であったことを明らかにした（「松江放送局のラジオ塔その2」二〇一六年一月二四日記事、<http://okigoka.blog.fc2.com/blog-entry-337.html>、二〇一九年八月二五日最終閲覧）。

参考文献

- 石田頼房「日本における土地区画整理制度史概説1870～1980」（『総合都市研究』二八号、一九八六年）
- 一幡公平『ラヂオ塔大百科2011-2014』（タカノメ特殊部隊、二〇一四年）
- 一幡公平『ラヂオ塔大百科2017』（タカノメ特殊部隊、二〇一七年）
- NHK大阪放送局七十年史編集委員会企画・編集『NHK大阪放送局七十年

- こちのJOBK』（日本放送協会大阪放送局、一九九五年）
- 大阪市役所編『昭和大阪市史 文化篇』（大阪市役所、一九五三年）
- 岡村雅之「京阪ラジオ塔ツアー——歴史の証言者の声を聴く」（『イグザミナ』二八七号、二〇一一年）
- 金沢放送局開局50周年記念事務局『NHK金沢放送局「50年のあゆみ」』（NHK金沢放送局、一九八一年）
- 栗原俊雄『20世紀遺跡 帝国の記憶を歩く』（角川学芸出版、二〇一二年）
- 黒田勇『ラジオ体操の誕生』（青弓社、一九九九年）
- 神戸新聞明石総局編『あかし昔がたり 聞き書き』（もくせい文庫、一九七九年）
- 佐藤紘司『ラヂオ塔』についての考察（放送博物館『NHK放送博物館だより』五八号、二〇一二年）
- 柴田昭彦「ラジオ塔遺構について」（神戸史学会『歴史と神戸』五二巻一号、二〇一三年）
- 柴田昭彦「六甲山のラジオ塔について」（神戸史学会『歴史と神戸』五三巻三号、二〇一四年）
- 図師宣忠・人見佐知子・藤井弘章編『ラジオ塔の歴史と現在（報告書）』東大阪市内における近現代の歴史文化遺産についての調査研究』（近畿大学文芸学部文化・歴史学科・東大阪市教育委員会、二〇一九年）
- 図師宣忠「文化資源としてのラジオ塔」（図師宣忠・人見佐知子・藤井弘章編『ラジオ塔の歴史と現在（報告書）』東大市内における近現代の歴史文化遺産についての調査研究』（近畿大学文芸学部文化・歴史学科・東大阪市教育委員会、二〇一九年）
- 戸崎敬子「大阪市立児童相談所と付設『学園』の成立と展開」（『特殊教育学研

究』三〇巻一号、一九九二年)

日本放送協会編『放送五十年史』(日本放送出版協会、一九七七年)

日本放送協会編『NHK大阪放送局開局80年——大正・昭和から平成へ(1925年～2005年)』(NHK大阪放送局BK開局80周年記念誌編集委員会、二〇〇五年)

宮川大介「放送史料探訪 『日刊ラヂオ新聞』——ラジオ草創期の専門紙」(『放送研究と調査』六四巻二号、二〇一四年)

宮川大介「放送史料探訪 『ラヂオの日本』——受信技術の啓蒙雑誌」(『放送研究と調査』六八巻七号、二〇一八年)

吉井正彦「史人の道草つづり書き 『ラヂオ塔』を知りませんか」(神戸史学会『歴史と神戸』四七巻六号、二〇〇八年)

吉井正彦「忘れられた『ラヂオ塔』を探し歩く」(戸倉信吉『放送とは何か? 3 SCREENS era』サテマガ・ビー・アイ、二〇〇九年)

吉井正彦「『ラヂオ塔』を訪ね歩く」(『月刊みんぱく』三五巻五号、二〇一一年)

吉井正彦「『ラヂオ塔』が神戸・諏訪山と豊中にも残っていた」(神戸史学会『歴史と神戸』五一巻二号、二〇一二年)

(付記) 本稿は、二〇一九年に東大阪市教育委員会から委託をうけ、近畿大学文芸学部文化・歴史学科の「文化探索実習」「文化活用・発信実習」「民俗学特論」などの授業をつうじておこなった「東大阪市内における近現代の歴史文化遺産についての調査研究」がもとになっている。受講生をはじめ、仲林篤史氏(東大阪市教育委員会)、吉原智香氏(同)、河野未央氏(尼崎市立地域研究史料館)、北嶋奈緒子氏(大阪市公文書館)、塩川隆文氏(元

金沢市立玉川図書館近世史料館)、宮下和幸氏(金沢市立玉川図書館近世史料館)、島根県立図書館にはとくにお世話になった。調査をすすめるにあたり、「ラジオ塔愛好家」の個人ブログにも多くの示唆を得た。ここに記して心より感謝申し上げます。

(追記) 脱稿後、ウェブサイト「デイリーポータルZ」に一幡公平氏へのインタビューをもとにした特集「近所にあるかも?戦前の街頭ラジオの痕跡『ラジオ塔』」(岡本智博氏執筆)が掲載された(二〇一九年一〇月二日付記事 <https://dailyportalz.jp/kiji/traces-of-radio-tower>、二〇一九年一二月四日最終確認)。ここでは、埼玉県川越市初雁公園野球場ラジオ塔(No.127)、香川県大川郡長尾町(現さぬき市)長尾寺境内ラジオ塔(No.347)の所在が新たに判明したことが報告された。

別表 ラジオ塔一覧

	都道府県	『ラジオ年鑑』記載の名称	現在の市町村名	現在の立地 (空欄は不明)	現地確認による有無 (空欄は未確認)	設置年	設置年 (西暦)	『ラジオ年鑑』記載の設計 概要	支那 (放送局)	『ラジオ年鑑』記載号 (昭和14年版は欠号)	備考
1	北海道	札幌市大通道通地	札幌市中央区	大通西3丁目		昭和7年	1932	高12尺、鉄筋混泥土、 燈型	札幌	8-17	17は「札幌市 大通西三」。
2	北海道	小樽市小樽公園	小樽市	小樽公園		昭和7年	1932	高12尺、鉄筋混泥土、 燈型	札幌	8-17	
3	北海道	旭川市常磐公園	旭川市	常磐公園		昭和7年	1932	高12尺、鉄筋混泥土、 燈型	札幌	8-17	
4	北海道	函館市函館駅前	函館市	JR 函館駅		昭和7年	1932	高12尺、鉄筋混泥土、 燈型	札幌	8-17	16、17の設置 年は昭和15 年。
5	北海道	亀田郡七飯村大沼公園	亀田郡七飯町	大沼公園		昭和7年	1932	高12尺、鉄筋混泥土、 燈型	札幌	8-17	16、17の設置 年は昭和15 年。
6	北海道	札幌市中島公園	札幌市中央区	中島公園		昭和8年	1933	高14尺、鉄筋混泥土煉瓦 作り、塔上4尺の旗桿を立 て凸型	札幌	9-17	
7	北海道	函館市東川小公園	函館市			昭和9年	1934		札幌	8-10	10に「塔焼 失」とあり。 【一幡2017】 に記載なし。
8	北海道	札幌市外円山公園	札幌市中央区	円山公園		昭和11年	1936	高12尺、木柱、神燈型	札幌	13-17	17は「札幌市 円山公園」。No 9と同じか。
9	北海道	札幌市円山公園				昭和16年	1941		札幌	18	No 8 と 同 じか。
10	北海道	函館市公園広場	函館市	函館公園		昭和13年	1938	高12尺、鉄筋混泥土、神 燈型	札幌	15-17	
11	北海道	小樽市小樽公園	小樽市	小樽公園		昭和15年	1940		札幌	17	
12	北海道	旭川市六条十丁目	旭川市	6条通10丁目		昭和15年	1940		札幌	17	
13	北海道	旭川市市集会場広場	旭川市			昭和15年	1940		札幌	16	
14	北海道	函館市新川町共愛館前	函館市			昭和15年	1940		札幌	16、17	17は「函館市 新川町共愛会 館前」。
15	北海道	釧路市大川町	釧路市			昭和15年	1940		札幌	17	
16	北海道	釧路市幣舞橋詰緑込地	釧路市	幣舞橋付近?		昭和15年	1940		札幌	16、17	17は「釧路市 幣舞町」。
17	北海道	釧路市市役所前広場	釧路市			昭和15年	1940		札幌	16、17	
18	北海道	帯広市帯広駅前	帯広市	JR 帯広駅		昭和15年	1940		札幌	16、17	
19	北海道	江別町江別神社境内	江別市	江別神社		昭和15年	1940		札幌	16、17	17は「江別町 神社境内」。
20	北海道	岩見沢町岩見沢駅前	岩見沢市	JR 岩見沢駅		昭和15年	1940		札幌	16、17	17は「岩見沢 町駅前」。
21	北海道	深川町森元町	深川市			昭和15年	1940		札幌	16、17	16は「深川 町」のみ。
22	北海道	名寄町駅前	名寄市	JR 名寄駅		昭和15年	1940		札幌	16、17	
23	北海道	江差町中歌町	檜山郡江差町			昭和15年	1940		札幌	17	
24	北海道	瀬棚町金津町	久遠郡せたな町			昭和15年	1940		札幌	16、17	17の「瀬棚 町」は誤植。
25	北海道	森町青葉ヶ丘公園道通地	茅渚郡森町	青葉ヶ丘公園		昭和15年	1940		札幌	16、17	17は「森町青 葉ヶ丘公園」。

26	北海道	苫小牧町役場前	苫小牧市		昭和15年	1940	札幌	16	No.27と 同 じか。
27	北海道	苫小牧町本町	苫小牧市		昭和15年	1940	札幌	17	No.26と 同 じか。
28	北海道	幌別郡幌別村登別温泉	登別市	登別温泉	昭和15年	1940	札幌	17	
29	北海道	浦河町役場前	浦河郡浦河町		昭和15年	1940	札幌	16, 17	
30	北海道	厚岸町松葉町	厚岸郡厚岸町		昭和15年	1940	札幌	16, 17	16は「厚岸 町」のみ。 17は「根室町 公会堂前」。
31	北海道	根室町公会堂構内	根室市		昭和15年	1940	札幌	16, 17	
32	北海道	野付牛町高台道逦地	北見市		昭和15年	1940	札幌	16, 17	
33	北海道	網走町南一東一	網走市		昭和15年	1940	札幌	16, 17	16は「網走 町」のみ。
34	北海道	留萌町南大通	留萌市		昭和15年	1940	札幌	16, 17	
35	北海道	稚内町神社前	稚内市		昭和15年	1940	札幌	17	
36	北海道	札幌市大通道逦地西九丁目	札幌市中央区	大通西9丁目	昭和16年	1941	札幌	18	
37	北海道	札幌市山鼻小公園	札幌市中央区	山鼻公園?	昭和16年	1941	札幌	18	
38	北海道	小樽市相生町郷社水天宮境内	小樽市	水天宮	昭和16年	1941	札幌	17, 18	
39	北海道	小樽市南浜町埠頭	小樽市		昭和16年	1941	札幌	18	
40	北海道	函館市新川町第三号公園	函館市		昭和16年	1941	札幌	18	
41	北海道	函館市五稜廓史蹟館前	函館市		昭和16年	1941	札幌	18	
42	北海道	函館市湯倉神社境内	函館市	湯倉神社	昭和16年	1941	札幌	18	
43	北海道	帯広市依田惣三銅像前	帯広市	中島公園	昭和16年	1941	札幌	18	
44	北海道	深川町駅前	深川市	JR深川駅	昭和16年	1941	札幌	18	
45	北海道	室蘭市室蘭駅前	室蘭市	室蘭駅旧駅舎	昭和16年	1941	札幌	16-18	16の設置年は 昭和15年。 17, 18は「室 蘭市輪西駅 前」。16の設 置年は昭和15 年。
46	北海道	室蘭市輪西町輪西駅前	室蘭市	JR輪西駅	昭和16年	1941	札幌	16-18	
47	北海道	富良野町市場	富良野市		昭和16年	1941	札幌	17	No.48と 同 じか。
48	北海道	富良野町市街	富良野市		昭和16年	1941	札幌	18	No.47と 同 じか。
49	北海道	余市町登川橋際道逦地	余市郡余市町		昭和16年	1941	札幌	18	
50	北海道	八雲町駅前	二世郡八雲町	JR八雲駅	昭和16年	1941	札幌	18	
51	北海道	虻田町洞爺湖温泉	虻田郡洞爺湖町	洞爺湖温泉	昭和16年	1941	札幌	18	
52	北海道	弟子屈村	川上郡弟子屈町		昭和16年	1941	札幌	18	
53	樺太	豊原市西一南三	サハリン州コブナ		昭和15年	1940	札幌	17	
54	樺太	樺太豊原市景徳寺境内	サハリン州コブナ		昭和15年	1940	札幌	16	
55	樺太	樺太真岡町公園	サハリン州カムイ		昭和16年	1941	札幌	17, 18	18は「樺太真 岡町小公園」。
56	青森県	青森市合浦公園	青森市	合浦公園	昭和14年	1939	仙台	16, 17	
57	青森県	青森市聖徳公園	青森市	聖徳公園	昭和14年	1939	仙台	16, 17	
58	青森県	弘前市鷹揚城公園	弘前市	弘前城跡	昭和14年	1939	仙台	16, 17	

	都道府県	『ラジオ年鑑』記載の名称	現在の市町村名	現在の立地 (空欄は不明)	現地確認による有無 (空欄は未確認)	設置年	設置年 (西暦)	『ラジオ年鑑』記載の設計概要	放送局	『ラジオ年鑑』記載号 (昭和14年版は欠号)	備考
59	青森県	八戸市三八城公園	八戸市	三八城公園 (空欄は不明)		昭和14年	1939		仙台	16, 17	
60	青森県	青森県致遠小学校前	弘前市	弘前市致遠小学校		昭和15年	1940		仙台	17	
61	青森県	青森県中川村役場前	五所川原市			昭和15年	1940		仙台	17	17の設立年は昭和15年。18は「青森県浅瀬石国民学校」。
62	青森県	青森県浅瀬石小学校前	黒石市	黒石市立浅瀬石小学校	×	昭和16年	1941		仙台	17, 18	
63	青森県	青森県大畑町役場前	むつ市	大畑町本町付近		昭和16年	1941		仙台	17, 18	17の設立年は昭和15年。
64	岩手県	盛岡市物産館前	盛岡市			昭和7年	1932	高9.3尺、基礎混泥土作り、角燈籠型	仙台	8-17	
65	岩手県	盛岡市岩手公園	盛岡市	岩手城跡公園		昭和14年	1939		仙台	16, 17	
66	岩手県	宮古市役場前	宮古市		×	昭和14年	1939		仙台	16, 17	16は「岩手県宮古市役場前」。昭和16年宮古市成立。
67	岩手県	岩手県一ノ関町役場前	一関市			昭和14年	1939		仙台	16, 17	
68	岩手県	釜石市役所前	釜石市			昭和16年	1941		仙台	18	初出は8「仙台桜ヶ岡公園」だが、以降に記載はみられず。16, 17に再出。
69	宮城県	仙台市桜ヶ岡公園	仙台市青葉区	西公園		昭和14年	1939		仙台	8, 16, 17	
70	宮城県	仙台市霊屋下	仙台市青葉区	霊屋下		昭和14年	1939		仙台	16, 17	
71	宮城県	宮城県白石町益岡公園	白石市	益岡公園		昭和14年	1939		仙台	16, 17	17の「盛岡公園」は誤植。
72	宮城県	宮城県岩沼町竹駒神社境内	岩沼市	竹駒神社		昭和14年	1939		仙台	16, 17	
73	宮城県	宮城県松島海岸公園広場	宮城県松島町			昭和16年	1941		仙台	18	
74	宮城県	宮城県若柳町神社境内	栗原市			昭和16年	1941		仙台	18	
75	宮城県	宮城県築館町役場前	栗原市			昭和16年	1941		仙台	18	
76	宮城県	宮城県佐沼町役場脇	登米市			昭和16年	1941		仙台	18	
77	宮城県	宮城県古川町十日町角	大崎市			昭和16年	1941		仙台	18	
78	宮城県	宮城電鉄石巻駅前	石巻市	JR仙石線石巻駅		昭和16年	1941		仙台	18	
79	宮城県	宮城県角田町役場前	角田市			昭和16年	1941		仙台	18	
80	宮城県	宮城県丸森町郵便局前	伊具郡丸森町			昭和16年	1941		仙台	18	
81	秋田県	秋田市千秋公園	秋田市	千秋公園	×	昭和7年	1932	高9.3尺、基礎混泥土作り、角燈籠型	仙台	8-17	
82	秋田県	秋田県土崎港町土崎公園	秋田市			昭和14年	1939		仙台	16, 17	
83	秋田県	秋田県能代港町能代公園	能代市	能代公園		昭和14年	1939		仙台	16, 17	17は「秋田県能代市能代公園」。昭和15年能代市成立。
84	秋田県	秋田県大館郵便局前	大館市			昭和14年	1939		仙台	16, 17	
85	秋田県	秋田県鷹巣町公会堂	北秋田市			昭和15年	1940		仙台	17	

86	秋田県	秋田県稲庭町小学校内	湯沢市	湯沢市立稲庭小学校		昭和16年	1941		仙台	17.18	18は「秋田県稲庭国民学校内」。17の設立年は昭和15年。
87	秋田県	秋田県矢島町役場前	由利本荘市			昭和16年	1941		仙台	17.18	17の設立年は昭和15年。
88	秋田県	秋田県船川郵便局前	男鹿市			昭和16年	1941		仙台	17.18	17は「秋田県船川町郵便局前」。17の設立年は昭和15年。
89	秋田県	秋田県花輪町公会堂	鹿角市	花輪図書館	×	昭和16年	1941		仙台	17.18	17の設立年は昭和15年。
90	山形県	山形市雁島公園	山形市	山形市役所庁舎の西付近		昭和7年	1932	高9.3尺、基礎混泥土作り、角燈籠型	仙台	8-17	
91	山形県	米沢市上杉神社境内	米沢市	上杉神社		昭和14年	1939		仙台	16.17	
92	山形県	鶴岡市中央公園	鶴岡市			昭和14年	1939		仙台	16.17	
93	山形県	酒田市日和山公園	酒田市	日和山公園	×	昭和14年	1939		仙台	16.17	
94	山形県	山形県上ノ山町駅前通り	上山市	JRかみのやま温泉駅前通り		昭和14年	1939		仙台	16.17	
95	山形県	山形市護国神社境内	山形市	山形県護国神社		昭和16年	1941		仙台	16-18	16、17の設立年は昭和14年。
96	山形県	山形市第二公園	山形市	第二公園		昭和16年	1941		仙台	18	
97	山形県	米沢市物産陳列所前	米沢市			昭和16年	1941		仙台	18	
98	山形県	山形県各地町役場前				昭和16年	1941		仙台	18	
99	山形県	山形県新庄町招魂社境内	新庄市	新庄護国神社		昭和16年	1941		仙台	18	
100	山形県	山形県長井町松ヶ池公園	長井市	松ヶ池公園		昭和16年	1941		仙台	18	
101	福島県	福島市中央公園	福島市	福島市中央駐車場		昭和7年	1932	高9.3尺、基礎混泥土作り、角燈籠型	仙台	8-17	
102	福島県	福島市紅葉山公園	福島市	紅葉山公園		昭和14年	1939		仙台	16.17	
103	福島県	若松市物産陳列所前	会津若松市	会津若松市生涯学習総合センター		昭和14年	1939		仙台	16.17	
104	福島県	郡山市安積国造神社境内	郡山市	安積国造神社		昭和14年	1939		仙台	16.17	
105	福島県	平市城山公園	いわき市	磐城平城?		昭和14年	1939		仙台	16.17	
106	福島県	福島県白河町駅前通	白河市	JR白河駅		昭和14年	1939		仙台	16.17	
107	福島県	福島県二本松町二本松神社境内	二本松市	二本松神社	×	昭和14年	1939		仙台	16.17	
108	福島県	福島県原町三島神社境内	南相馬市原町区	三島神社	×	昭和14年	1939		仙台	16.17	
109	福島県	福島県須賀川町妙林寺境内	須賀川市	妙林寺		昭和14年	1939		仙台	16.17	
110	福島県	福島県高田町高田公園(予定地)	大沼郡会津美里町			昭和14年	1939		仙台	16	
111	福島県	福島県中村町馬渡公園	相馬市	馬渡公園?		昭和15年	1940		仙台	17	「馬渡公園」は馬渡公園の誤植カ。
112	福島県	福島県石川町神社脇	石川郡石川町	石都々古和気神社?		昭和15年	1940		仙台	17	

	都道府県	『ラジオ年鑑』記載の名称	現在の市町村名	現在の立地 (空欄は不明)	現地確認による有無 (空欄は未確認)	設置年	設置年 (西暦)	『ラジオ年鑑』記載の設計 概要	放送局	『ラジオ年鑑』記載号 (昭和14年版は欠号)	備考
113	福島県	福島県小名浜町々宮魚市場 外側	いわき市			昭和16年	1941		仙台	18	
114	福島県	福島県三春町役場前	田村郡三春町			昭和16年	1941		仙台	17, 18	17の設立年は昭和15年。18は「福島県三春町役場広場」。
115	福島県	福島県石川国民学校前	石川郡石川町			昭和16年	1941		仙台	18	
116	福島県	福島県本宮町摩利支天境内	本宮市			昭和16年	1941		仙台	18	
117	茨城県	水戸市大慈悲山保和苑桂岸寺	水戸市	二十三夜尊桂岸寺 べんてんいけ児童公園	×	昭和15年	1940		直轄	16, 17	
118	茨城県	日立市弁天池公園	日立市	日立市中央児童遊園るなばあく	×	昭和15年	1940		直轄	17	
119	栃木県	宇都宮市二荒神社	宇都宮市	宇都宮二荒山神社 第二公園	×	昭和15年	1940		直轄	16, 17	
120	栃木県	栃木市第二公園	栃木市	第二公園	×	昭和15年	1940		直轄	17	
121	栃木県	栃木県佐野町役場前広場	佐野市			昭和16年	1941		直轄	18	
122	栃木県	足利市足利公園	足利市	足利公園	×	昭和16年	1941		直轄	18	
123	群馬県	前橋市前橋公園	前橋市	前橋市中央児童遊園るなばあく	○	昭和8年	1933	高15.6尺、鉄筋混凝土、 燈籠型	直轄	8-17	8は「前橋市」のみ。
124	群馬県	高崎市高崎公園	高崎市	高崎公園		昭和15年	1940		直轄	16, 17	
125	群馬県	桐生市桐生ヶ岡公園	桐生市	桐生か岡公園	×	昭和15年	1940		直轄	17	
126	埼玉県	浦和市調宮公園	さいたま市浦和区	調宮公園	○	昭和15年	1940		直轄	16, 17	『ラジオ年鑑』の表記「調宮公園」は誤植。
127	埼玉県	川越市グラウンド	川越市			昭和15年	1940		直轄	17	
128	埼玉県	埼玉県松山町々宮運動場	東松山市			昭和16年	1941		直轄	18	
129	千葉県	千葉県千葉神社境内	千葉市中央区	千葉神社	×	昭和15年	1940		直轄	17	
130	千葉県	千葉県成田町成田山新勝寺公園	成田市	成田山公園	×	昭和15年	1940		直轄	16, 17	
131	東京都	東京都隅田公園	墨田区	隅田公園		昭和7年	1932	高16.5尺、スエッチ付、 鉄筋混凝土、洋型	直轄	8-17	
132	東京都	東京都愛宕公園	港区	愛宕神社		昭和12年	1937	高10尺、鉄筋混凝土、 燈籠型	直轄	13-17	
133	東京都	東京市佐久間公園	千代田区	佐久間公園	×	昭和12年	1937	高12尺、鉄筋混凝土、 洋型	直轄	13-17	
134	東京都	東京市大島公園	江東区?			昭和13年	1938		直轄	15-17	
135	東京都	東京市品川聖蹟公園	品川区	聖蹟公園	○	昭和13年	1938		直轄	15-17	
136	東京都	東京市新井薬師公園	中野区	新井薬師公園	×	昭和13年	1938		直轄	15-17	
137	東京都	東京市日比谷公園	千代田区	日比谷公園	×	昭和15年	1940		直轄	16, 17	
138	神奈川県	横浜市野毛山公園	横浜市西区	野毛山公園	○	昭和7年	1932	高15.6尺、鉄筋混凝土、 燈籠型	直轄	8-17	
139	神奈川県	鎌倉市八幡宮境内	鎌倉市	鶴岡八幡宮?		昭和15年	1940		直轄	17	
140	新潟県	新潟市白山公園	新潟市中央区	白山公園	○	昭和7年	1932	高12尺、混凝土燈籠型、 池中に建設	直轄	8-17	
141	新潟県	長岡市武徳殿前	長岡市	東坂之上町1付近		昭和15年	1940		直轄	17	
142	富山県	富山市富山公園	富山市			昭和15年	1940		名古屋	17	

143	富山県	高岡市古城公園	高岡市	高岡古城公園		昭和15年	1940		名古屋	17	
144	富山県	富山県射水郡伏木港埠頭	高岡市			昭和15年	1940		名古屋	17	
145	石川県	金沢市兼六公園	金沢市	兼六園	○	昭和8年	1933	基礎鉄筋混凝土、木製屋根 銅葺、春日燈籠型	名古屋	8-17	
146	石川県	金沢市卯辰山公園	金沢市	卯辰山公園		昭和15年	1940		名古屋	17	
147	石川県	石川県鳳至郡輪島町役場前	輪島市	輪島市ふれあい 健康センター		昭和15年	1940		名古屋	17	
148	石川県	石川県能美郡小松町芦城公園	小松市	芦城公園	○	昭和15年	1940		名古屋	17	
149	石川県	石川県江沼郡山中町総湯前	加賀市	山中温泉 湯・菊の湯	×	昭和15年	1940		名古屋	17	
150	石川県	石川県石川郡松任町蘇城公園	白山市	松任城址公園		昭和16年	1941		名古屋	18	
151	福井県	福井市佐佳枝神社	福井市	佐佳枝神社	×	昭和8年	1933	高8.3尺、基礎鉄筋混凝 土、上部木製、春日燈籠型	名古屋	8-17	
152	福井県	福井県坂井郡三国町氷川神社	坂井市	氷川神社	×	昭和15年	1940		名古屋	17	
153	福井県	福井県丸岡町霞城公園	坂井市	霞ヶ城公園	×	昭和15年	1940		名古屋	17	
154	福井県	福井県今立郡鯖江町鶴陽公園	鯖江市	西山公園	×	昭和15年	1940		名古屋	17	
155	福井県	敦賀市市役所前	敦賀市	市民文化セン ター	×	昭和15年	1940		名古屋	17	
156	福井県	福井県遠敷郡小浜町小浜公園	小浜市	小浜公園	×	昭和16年	1941		名古屋	18	
157	山梨県	甲府市遊亀公園	甲府市	遊亀公園	×	昭和13年	1938		直轄	15-17	
158	長野県	長野市城山公園	長野市	城山公園		昭和8年	1933	高16.5尺、スチツチ付、 鉄筋混凝土、洋型	直轄	8-17	
159	長野県	松本市中央公園	松本市	中央公園		昭和15年	1940		直轄	16、17	
160	長野県	飯田市飯田駅前	飯田市	JR飯田駅		昭和15年	1940		名古屋	17	
161	長野県	長野県諏訪郡上諏訪町片倉 会館前	諏訪市	片倉館	×	昭和15年	1940		名古屋	17	
162	長野県	長野県北佐久郡小諸町小諸 公園	小諸市			昭和16年	1941		名古屋	18	
163	長野県	上田市公園広場	上田市			昭和16年	1941		名古屋	18	
164	長野県	岡谷市役所横	岡谷市	旧岡谷市役所		昭和16年	1941		名古屋	18	
165	岐阜県	岐阜市岐阜公園	岐阜市	岐阜公園		昭和8年	1933	高12尺、木造ボツボリ型	名古屋	8-17	
166	岐阜県	高山市城山公園	高山市	城山公園		昭和15年	1940		名古屋	17	
167	岐阜県	岐阜市金公園	岐阜市	金公園		昭和16年	1941		名古屋	18	
168	岐阜県	大垣市大垣公園	大垣市	大垣公園		昭和16年	1941		名古屋	18	
169	岐阜県	多治見市土岐川畔	多治見市			昭和16年	1941		名古屋	18	
170	静岡県	静岡市清水公園	静岡市葵区	清水山公園	○	昭和8年	1933	高15.6尺、鉄筋混凝土、 燈籠型	直轄	8-17	
171	静岡県	静岡市公会堂前	静岡市葵区	葵区役所	×	昭和15年	1940		直轄	16、17	
172	静岡県	清水市港町一丁目	静岡市清水区			昭和15年	1940		直轄	17	
173	静岡県	浜松市五社神社	浜松市中区	五社神社 諏訪 神社	×	昭和15年	1940		直轄	16、17	
174	愛知県	名古屋市鶴舞公園	名古屋市昭和区	鶴舞公園	×	昭和8年	1933	高13尺、鉄筋混凝土、古 代燈籠型	名古屋	8-17	
175	愛知県	名古屋市笠寺観音	名古屋市南区	笠寺観音	×	昭和15年	1940		名古屋	17	

	都道府県	『ラジオ年鑑』記載の名称	現在の市町村名	現在の立地 (空欄は不明)	現地確認による有無 (空欄は未確認)	設置年	設置年 (西暦)	『ラジオ年鑑』記載の設計概要	放送局	『ラジオ年鑑』記載号 (昭和14年版は欠号)	備考
176	愛知県	名古屋市道徳公園	名古屋市南区	道徳公園		昭和15年	1940		名古屋17	17	
177	愛知県	名古屋市東別院	名古屋市中区	東別院	×	昭和15年	1940		名古屋17	17	
178	愛知県	名古屋市南久屋公園	名古屋市中区	久屋大通公園	×	昭和15年	1940		名古屋17	17	
179	愛知県	名古屋市上名古屋公園	名古屋市西区	上名古屋公園	×	昭和15年	1940		名古屋17	17	
180	愛知県	瀬戸市深川神社	瀬戸市	深川神社		昭和15年	1940		名古屋17	17	
181	愛知県	豊橋市公会堂前	豊橋市	豊橋市公会堂		昭和15年	1940		名古屋17	17	
182	愛知県	愛知県知多郡新舞子海岸	知多市	新舞子公園		昭和15年	1940		名古屋17	17	
183	三重県	津市大門観音	津市	津観音		昭和15年	1940		名古屋17	17	
184	三重県	松阪市松坂公園	松阪市	松坂公園		昭和15年	1940		名古屋17	17	
185	三重県	四日市諏訪公園	四日市市	諏訪公園		昭和16年	1941		名古屋18	18	
186	三重県	上野市菅原神社	伊賀市	菅原神社(上野天神宮)		昭和16年	1941		名古屋18	18	
187	三重県	桑名市九華公園	桑名市	九華公園		昭和16年	1941		名古屋18	18	
188	三重県	宇治山田市公会堂前	伊勢市	伊勢市観光文化会館		昭和16年	1941		名古屋18	18	
189	滋賀県	大津市長等公園	大津市	長等公園		昭和14年	1939		大阪	16, 17	
190	滋賀県	大津市石山寺境内	大津市			昭和14年	1939		大阪	16, 17	17は「大津市石山寺公園」。
191	滋賀県	彦根市護国神社	彦根市	滋賀県護国神社	×	昭和14年	1939		大阪	16, 17	
192	滋賀県	滋賀県豊公園	長浜市	豊公園	×	昭和14年	1939		大阪	16, 17	
193	滋賀県	滋賀県堅田町浮御堂	大津市	浮御堂		昭和15年	1940		大阪	17	
194	滋賀県	滋賀県八幡町公園内	近江八幡市			昭和15年	1940		大阪	17	
195	京都府	京都市円山公園	京都市東山区	円山公園	○	昭和7年	1932	高11.5尺、鉄筋混凝土、上部花崗岩、角燈籠型	大阪	8-17	10の「丸山公園」は誤植。
196	京都府	京都市船岡山公園	京都市北区	船岡山公園	○	昭和10年	1935	高10尺、箱型鉄筋作り(京都市建設、受信機のみ貸付)	大阪	11-17	15, 16, 17は「京都市船岡公園」。16, 17では、設立年を昭和7年としているが、船岡山公園の設置が昭和10年であるため、15以前の設立年を採用した。
197	京都府	京都市橘児童公園	京都市上京区	橘公園	○	昭和14年	1939		大阪	16, 17	
198	京都府	京都市二条公園	京都市上京区	二条公園	×	昭和14年	1939		大阪	16, 17	
199	京都府	京都市小坂公園	京都市下京区	小坂公園	×	昭和14年	1939		大阪	16, 17	
200	京都府	京都府八瀬公園	京都市左京区	ケーザル八瀬駅近く	○	昭和14年	1939		大阪	16, 17	
201	京都府	舞鶴市舞鶴公園	舞鶴市	舞鶴公園	×	昭和14年	1939		大阪	16, 17	16は「舞鶴市舞鶴市公園」。
202	京都府	福知山市御霊神社	福知山市	御霊神社	×	昭和14年	1939		大阪	16, 17	
203	京都府	京都府宮津町天ノ橋立	宮津市	天橋立	×	昭和14年	1939		大阪	16, 17	
204	京都府	京都市西本願寺児童公園	京都市下京区			昭和15年	1940		大阪	17	
205	京都府	東舞鶴市白糸浜神社境内	舞鶴市	白糸浜神社	×	昭和16年	1941		大阪	18	

206	大阪府	大阪市天王寺公園	大阪市天王寺区	天王寺公園	×	昭和5年	1930	高122.2尺、鉄筋混泥土粟石作り、角燈籠型	大阪	8-17	
207	大阪府	大阪市住吉公園	大阪市住之江区	住吉公園	○(再建)	昭和8年	1933	高11.5尺、人造研出磨、上部紫雲石、角燈籠型	大阪	8-17	
208	大阪府	堺市大浜公園	堺市堺区	大浜公園	○	昭和8年	1933	高9.5尺、鉄筋栗石作り、箱型	大阪	8-17	
209	大阪府	大阪市大手前公園	大阪市中央区	大坂城公園	○	昭和13年	1938		大阪	15-17	
210	大阪府	大阪市真田山公園	大阪市天王寺区	真田山公園	×	昭和14年	1939		大阪	16、17	
211	大阪府	大阪市上六公園	大阪市天王寺区	大阪市天王寺区 上本町6丁目2 付近	×	昭和14年	1939		大阪	16、17	
212	大阪府	大阪市十三公園	大阪市淀川区	十三公園	×	昭和14年	1939		大阪	16、17	
213	大阪府	大阪市此花公園	大阪市此花区	此花公園	×	昭和14年	1939		大阪	16、17	
214	大阪府	大阪市西九条公園	大阪市此花区	西九条公園	×	昭和14年	1939		大阪	16、17	
215	大阪府	大阪市万代池公園	大阪市住吉区	万代池公園	×	昭和14年	1939		大阪	16、17	
216	大阪府	大阪市城北公園	大阪市旭区	城北公園	×	昭和14年	1939		大阪	16、17	
217	大阪府	大阪市森小路公園	大阪市旭区	森小路公園	×	昭和14年	1939		大阪	16、17	
218	大阪府	大阪市股ヶ池公園	大阪市阿倍野区	桃ヶ池公園	×	昭和14年	1939		大阪	16、17	
219	大阪府	大阪市平野公園	大阪市平野区	平野公園	×	昭和14年	1939		大阪	16、17	
220	大阪府	大阪府箕面公園	箕面市	箕面公園 瀧安寺	○	昭和14年	1939		大阪	16、17	
221	大阪府	布施市小坂公園	東大阪市			昭和14年	1939		大阪	16、17	
222	大阪府	岸和田市役所跡	岸和田市			昭和14年	1939		大阪	16、17	16は「岸和田市岸和田市役所跡」。 16は「豊中市豊中市公園」。
223	大阪府	豊中市小公園	豊中市	大曾公園	○(柱のみ)	昭和14年	1939		大阪	16、17	
224	大阪府	池田市公会堂前広場	池田市			昭和14年	1939		大阪	16、17	
225	大阪府	大阪市高松公園	大阪市阿倍野区	高松公園	×	昭和15年	1940		大阪	17	
226	大阪府	大阪府姫島公園	大阪市西淀川区	姫島公園	×	昭和15年	1940		大阪	17	
227	大阪府	吹田市高浜神社境内	吹田市	高浜遊園		昭和15年	1940		大阪	17	
228	大阪府	大阪府泉殿神社境内	吹田市	泉殿宮		昭和15年	1940		大阪	17	
229	大阪府	大阪府高槻町役場前広場	高槻市	高槻市大手町3 付近		昭和15年	1940		大阪	17	
230	大阪府	大阪市南海電車沿線長野	河内長野市			昭和15年	1940		大阪	17	
231	大阪府	大阪市南海電車沿線淡輪	泉南郡岫町			昭和15年	1940		大阪	17	
232	大阪府	大阪府香里成田山公園	寝屋川市	成田山大阪別院	○	昭和15年	1940		大阪	18	設置年は銘板から判断した。
233	兵庫県	神戸市湊川公園	神戸市兵庫区	湊川公園	×	昭和6年	1931	高15尺、鉄筋混泥土、ニ ゼット型	大阪	8-17	
234	兵庫県	尼崎市庄下川畔公園	尼崎市	尼崎城址公園、 市立尼崎中央図書館 付近	×	昭和12年	1937	高13尺、鉄筋混泥土、角 燈籠型(尼崎市建設、受信 機当局寄贈)	大阪	12-17	現在の立地は 〔吉井2008〕 による。
235	兵庫県	明石市中崎遊園地	明石市	中崎遊園地	○	昭和12年	1937	高13尺、鉄筋混泥土、角 燈籠型(明石市建設、受信 機寄贈)	大阪	13-17	
236	兵庫県	姫路市姫山公園	姫路市	姫山公園	×	昭和13年	1938		大阪	15-17	
237	兵庫県	神戸市東遊園地	神戸市中央区	東遊園地	×	昭和14年	1939		大阪	16、17	
238	兵庫県	兵庫県宝塚公園	宝塚市			昭和14年	1939		大阪	16、17	

	都道府県	『ラジオ年鑑』記載の名称	現在の市町村名	現在の立地 (空欄は不明)	現地確認による有無 (空欄は未確認)	設置年	設置年 (西暦)	『ラジオ年鑑』記載の設計概要	放送局	『ラジオ年鑑』記載号 (昭和14年版は欠号)	備考
239	兵庫県	洲本市三熊公園	洲本市	大浜公園 (空欄は不明)		昭和14年	1939		大阪	16, 17	
240	兵庫県	兵庫県甲子園球場前	西宮市	甲子園球場前	×	昭和14年	1939		大阪	16, 17	
241	兵庫県	神戸市須磨浦公園	神戸市須磨区	須磨浦公園	×	昭和15年	1940		大阪	17	
242	兵庫県	神戸市再度山公園	神戸市中央区	諏訪山公園	○	昭和15年	1940		大阪	17	現在の立地は 〔吉井2012〕 による。
243	兵庫県	兵庫県有馬町役場前広場	神戸市北区			昭和15年	1940		大阪	17	〔柴田2014〕 により設置年 を昭和14年 から昭和15 年に修正。
244	兵庫県	兵庫県六甲山公園				昭和15年	1940		大阪	16, 17	
245	兵庫県	西宮市阪急沿線西宮	西宮市			昭和15年	1940		大阪	17	
246	兵庫県	伊丹市阪急沿線伊丹	伊丹市			昭和15年	1940		大阪	17	
247	兵庫県	伊丹市阪急沿線夙川畔	伊丹市			昭和15年	1940		大阪	17	
248	兵庫県	兵庫県阪急沿線武庫川畔				昭和15年	1940		大阪	17	
249	兵庫県	西宮市役所前公園	西宮市			昭和16年	1941		大阪	18	
250	奈良県	奈良市奈良公園	奈良市	奈良公園猿沢池 の畔	×	昭和6年	1931	高12.2尺、木製春日燈籠 型	大阪	8-17	
251	奈良県	奈良県おやめヶ池	奈良市	豊浦池		昭和14年	1939		大阪	16, 17	
252	奈良県	奈良県生駒公園	生駒市			昭和14年	1939		大阪	16, 17	
253	奈良県	奈良県御所町小公園	御所市			昭和14年	1939		大阪	16, 17	
254	奈良県	奈良県本町公園				昭和14年	1939		大阪	16, 17	
255	奈良県	奈良県吉野山公園	吉野郡吉野町			昭和14年	1939		大阪	16, 17	
256	奈良県	奈良県高田町公園内 提塘	大和高田市			昭和15年	1940		大阪	17	
257	奈良県	奈良県郡山町五軒屋敷西川 提塘	大和郡山市			昭和15年	1940		大阪	17	「提」は堤の誤 補丸。
258	奈良県	奈良県丹波市町川原城新地 堤防	天理市			昭和15年	1940		大阪	17	
259	奈良県	奈良県磯城郡田原本町関急 駅前	磯城郡田原本町	近畿日本鉄道田 原本駅		昭和16年	1941		大阪	18	
260	和歌山県	和歌山市和歌山公園	和歌山市	和歌山城公園	×	昭和8年	1933	高11.5尺、鉄筋混煉土、 栗石目潰砂利作り、角燈籠 型	大阪	8-17	
261	和歌山県	和歌山市和歌浦公園	和歌山市			昭和14年	1939		大阪	16, 17	
262	和歌山県	海南市天香山公園	海南市			昭和14年	1939		大阪	16, 17	
263	和歌山県	和歌山県田辺町公園	田辺市			昭和14年	1939		大阪	16, 17	
264	和歌山県	和歌山市紀三井山護国院	和歌山市	紀三井寺		昭和15年	1940		大阪	17	
265	和歌山県	和歌山県加太町淡島神社境 内	和歌山市	淡嶋神社		昭和15年	1940		大阪	17	
266	和歌山県	和歌山県御坊町小竹八幡神 社境内	御坊市	小竹八幡神社		昭和15年	1940		大阪	17	
267	和歌山県	和歌山県高野山金剛寺前広 場	伊都郡高野町	金剛峯寺		昭和16年	1941		大阪	18	
268	鳥取県	鳥取市久松公園	鳥取市	久松公園	×	昭和8年	1933	高9.5尺、鉄筋栗石作り、 箱型	大阪	10-17	

269	鳥取県	米子市鯉公園	米子市	湊山公園		昭和14年	1939		広島	16. 17	17に「鳥根県米子市鯉公園」とあるのは鳥取県の誤植カ。 16は県名表記なし。
270	鳥取県	鳥取県倉吉町打吹公園	倉吉市	打吹公園	×	昭和14年	1939		広島	16. 17	16は県名表記なし。
271	鳥取県	鳥取県青谷町	鳥取市			昭和15年	1940		広島	17	
272	鳥取県	鳥取県境町栄町空地	境港市	境港市栄町		昭和15年	1940		広島	17	
273	鳥取県	鳥取県八頭郡智頭町々役場横	八頭郡智頭町	下町公民館		昭和16年	1941		広島	18	
274	鳥根県	松江市城山公園	松江市	松江城山公園	○(移転)	昭和8年	1933	高9.9尺、幅5.3尺、鉄筋 温羅土、自動スイッチ付、 燈籠型	広島	8-17	
275	鳥根県	鳥根県大社町大社外苑	出雲市			昭和14年	1939		広島	16. 17	16は県名表記なし。
276	鳥根県	鳥根県出雲町亨楽園	出雲市			昭和14年	1939		広島	16. 17	16は「今市町亨楽園」。
277	鳥根県	鳥根県安来町安来公園	安来市	安来公園		昭和14年	1939		広島	16. 17	16は県名表記なし。
278	鳥根県	鳥根県益田町中央広園	益田市			昭和14年	1939		広島	16. 17	16は「益田町中央広場」。
279	鳥根県	浜田町中央広場	浜田市			昭和14年	1939		広島	16. 17	17に「山口県浜田町中央広場」とあるのは鳥根県の誤植カ。
280	鳥根県	鳥根県美保関町美保関神社境内	松江市	美保神社		昭和15年	1940		広島	17	
281	鳥根県	鳥根県平手町平田神社神社境内	出雲市	宇美神社		昭和15年	1940		広島	17	
282	鳥根県	鳥根県津和野町津和野神社境内	鹿足郡津和野町			昭和15年	1940		広島	17	
283	鳥根県	鳥根県能義郡広瀬町公会堂横道路	安来市			昭和16年	1941		広島	18	
284	鳥根県	鳥根県浜田市古城山護国神社境内	浜田市	浜田護国神社		昭和16年	1941		広島	18	
285	鳥根県	鳥根県周吉郡西郷町水祖神社境内	隠岐郡隠岐の島町	水祖神社		昭和16年	1941		広島	18	
286	岡山県	津山市鶴山公園	津山市	鶴山公園	×	昭和10年	1935	高8尺、木骨温羅土、角燈籠型、外部リボン塗クリー ム色(津山市建設、受信機のみ貸付)	大阪	11-17	16. 17の「津山市鶴山公園」は誤植。

	都道府県	『ラジオ年鑑』記載の名称	現在の市町村名	現在の立地 (空欄は不明)	現地確認による有無 (空欄は未確認)	設置年	設置年 (西暦)	『ラジオ年鑑』記載の設計概要	放送局	『ラジオ年鑑』記載号 (昭和14年版は欠号)	備考
287	岡山県	岡山市大蔵公園	岡山市北区	ビュアリテイマ きび第二駐車場	○(移転)	昭和14年	1939		大阪	15-17	16, 17の「岡 山市大蔵公園」 は誤植。
288	岡山県	岡山県高松町稲荷神社境内	岡山市北区	最上稲荷	○	昭和14年	1939		広島	16, 17	16は県名表記 なし。
289	岡山県	岡山市東山公園	岡山市中区	東山公園	×	昭和14年	1939		大阪	16, 17	
290	岡山県	岡山県西大寺町西大寺境内	岡山市東区	西大寺観音院	×	昭和14年	1939		大阪	16, 17	
291	岡山県	岡山県高梁町報国ラヂオ体 操会場	高梁市			昭和14年	1939		広島	16, 17	16は県名表記 なし。
292	岡山県	岡山県笠岡町渡船場	笠岡市			昭和14年	1939		広島	16, 17	16は県名表記 なし。
293	岡山県	倉敷市鶴形公園	倉敷市	鶴形山公園	×	昭和14年	1939		広島	16, 17	
294	岡山県	岡山県総社町総社宮境内	総社市	総社宮	×	昭和15年	1940		広島	17	
295	岡山県	岡山県片上町	備前市		×	昭和15年	1940		広島	17	
296	岡山県	岡山市上伊福津倉町上伊福 西公園	岡山市北区	上伊福西公園	○	昭和16年	1941		広島	18	
297	岡山県	岡山市石関町岡山神社境内	岡山市北区	岡山神社	×	昭和16年	1941		広島	18	
298	広島県	呉市二河公園	呉市	二河公園	×	昭和7年	1932	高9.9尺、幅5.3尺、鉄筋 混凝土、自動スイッチ付、 燈籠型	広島	8-17	
299	広島県	広島市招魂社外苑	広島市中区	広島市青少年セ ンター		昭和8年	1933	高14.6尺、燈籠型	広島	8-17	8は「建設中」 とあり。
300	広島県	広島市比治山公園	広島市南区	比治山公園	×	昭和14年	1939		広島	16, 17	
301	広島県	三原市々宮グラウンド	三原市	三原赤十字病院	×	昭和14年	1939		広島	16, 17	
302	広島県	広島県府中町神社境内	安芸郡府中町			昭和14年	1939		広島	16, 17	16は県名表記 なし。
303	広島県	広島県姫島町宝物館前	廿日市市	姫島神社宝物館		昭和14年	1939		広島	16, 17	16は県名表記 なし。
304	広島県	福山市遊園地	福山市			昭和14年	1939		広島	16, 17	
305	広島県	広島県鞆町渡船場	福山市	鞆の浦港	×	昭和14年	1939		広島	16, 17	16は県名表記 なし。
306	広島県	広島県竹原町々役場前	竹原市	道の駅たけはら 駐車場	×	昭和14年	1939		広島	16, 17	16は県名表記 なし。
307	広島県	広島県忠海町中央広場	竹原市	忠海公民館付近	×	昭和14年	1939		広島	16, 17	16は県名表記 なし。
308	広島県	尾道市千光寺公園	尾道市	千光寺公園	×	昭和14年	1939		広島	16, 17	
309	広島県	広島県三次町松原公園	三次市	住吉神社付近	×	昭和14年	1939		広島	16, 17	17の「杉原公 園」は誤植。 16は県名表記 なし。
310	広島県	広島県三津町公園	東広島市			昭和14年	1939		広島	16, 17	16は「三津町 公園内」。
311	広島県	広島市東練兵場	広島市東区	広島駅北側付近		昭和15年	1940		広島	17	
312	広島県	広島県東城町駅前広場	庄原市	JR東城駅前	×	昭和15年	1940		広島	17	
313	広島県	広島県甲山町高野山公園	世羅郡世羅町			昭和15年	1940		広島	17	
314	広島県	広島県木之江町々役場前広 場	豊田郡大崎上島 町	竹原警察署木江 交番の駐車場	×	昭和15年	1940		広島	17	

315	広島県	広島県吉田町々役場前	安芸高田市	安芸高田市社会福祉協議会吉田支所 広島市西区観音町？	×	昭和15年	1940		広島	17	
316	広島県	広島市観音町総合鍛錬場	広島市西区			昭和16年	1941		広島	18	
317	広島県	広島県安佐郡可部町中央広場	広島市安佐北区			昭和16年	1941		広島	18	
318	山口県	下関市赤間宮境内	下関市	赤間神社		昭和11年	1936	高11尺、燈籠型、花崗石(関門講演会建設、受信機寄贈)	広島	12-17	
319	山口県	山口市湯田公園	山口市			昭和14年	1939		広島	16, 17	
320	山口県	下関市亀山神社境内	下関市	亀山八幡宮		昭和14年	1939		広島	16, 17	
321	山口県	萩市々々宮グラウンド	萩市			昭和14年	1939		広島	16, 17	
322	山口県	徳山市駅前	徳山市	JR徳山駅		昭和14年	1939		広島	16, 17	
323	山口県	宇部市速谷神社境内	宇部市			昭和14年	1939		広島	16, 17	16の「宇部市」は宇部市の誤植。
324	山口県	岩国市錦帯橋畔	岩国市	錦帯橋		昭和14年	1939		広島	16, 17	
325	山口県	山口県室積町八幡宮境内	光市			昭和14年	1939		広島	16, 17	16は県名表記なし。
326	山口県	防府市駅前	防府市	JR防府駅		昭和14年	1939		広島	16, 17	
327	山口県	宇部市西区運動場	宇部市			昭和15年	1940		広島	17	
328	山口県	宇部市見初運動場	宇部市			昭和15年	1940		広島	17	
329	山口県	山口県厚狭町駅前広場	山陽小野田市	JR厚狭駅		昭和15年	1940		広島	17	
330	山口県	山口県小野田町夜場裏広場	山陽小野田市			昭和15年	1940		広島	17	
331	山口県	山口県深川町湊漁業組合広場	長門市			昭和15年	1940		広島	17	
332	山口県	山口県下松市駅前広場	下松市	JR下松駅		昭和16年	1941		広島	18	
333	山口県	山口県玖珂郡柳井町門協会館前	柳井市	市営まちなか駐車場		昭和16年	1941		広島	18	
334	徳島県	徳島市徳島公園	徳島市	徳島中央公園		昭和8年	1933	高9.5尺、箱型、鉄筋栗石作り	大阪	8-17	
335	徳島県	徳島市眉山公園	徳島市	眉山公園		昭和14年	1939		大阪	16, 17	
336	徳島県	徳島県麻植郡西尾村江川遊園地	吉野川市	吉野川医療センター		昭和15年	1940		大阪	17	
337	徳島県	徳島県板野郡撫養町鳳鳴園前広場	鳴門市	阿波銀行鳴門支店		昭和15年	1940		大阪	17	
338	徳島県	徳島県勝浦郡小松島町遊園地	小松島市			昭和16年	1941		大阪	18	
339	香川県	香川県三豊郡仁尾町遊園地	三豊市	塩釜神社		昭和10年	1935	角燈籠型(同町塩田忠左衛門氏建設)	大阪	11-17	15-17は「香川県三豊郡仁尾遊園地」。
340	香川県	香川県多度津町桃陵公園	仲多度郡多度津町	桃陵公園		昭和14年	1939		大阪	16	
341	香川県	香川県観音寺町琴弾公園	観音寺市	琴弾公園		昭和14年	1939		大阪	16, 17	
342	香川県	高松市栗林公園高工奨励館前	高松市	商工奨励館		昭和15年	1940		広島	17	「高」は商の誤植カ。
343	香川県	高松市八幡宮絵馬堂横	高松市	石清尾八幡宮？		昭和15年	1940		広島	17	
344	香川県	香川県平井町大字平木広場	木田郡三木町			昭和15年	1940		広島	17	
345	香川県	香川県坂出町広場銅像横	坂出市			昭和15年	1940		広島	17	

	都道府県	『ラジオ年鑑』記載の名称	現在の市町村名	現在の立地 (空欄は不明)	現地確認による有無 (空欄は未確認)	設置年	設置年 (西暦)	『ラジオ年鑑』記載の設計 概要	放送局	『ラジオ年鑑』記載号 (昭和14年版は欠号)	備考
346	香川県	香川県丸亀市駅前広場	丸亀市	JR丸亀駅	×	昭和16年	1941		広島	18	
347	香川県	香川県大川郡長尾町長尾寺境内	さぬき市	長尾寺		昭和16年	1941		広島	18	
348	愛媛県	松山市城山公園	松山市	城山公園	×	昭和11年	1936	高15尺、燈籠型、鉄筋コンクリート(松山市建設、受信機ノミ提供)	広島	12-17	『ラジオ年鑑』の表記は「松江市城山公園」だが、設計概要に「松山市建設」とあるため、「松江市」は松山市の誤植。
349	愛媛県	愛媛県道後湯之町公園	松山市	道後公園?		昭和14年	1939		広島	16, 17	16は「道後町公園」。
350	愛媛県	八幡浜市八幡神社境内	八幡浜市	八幡神社	×	昭和14年	1939		広島	16, 17	16は「八幡浜市八幡社境内」。
351	愛媛県	新居浜市々役所前	新居浜市	口屋跡記念公民館	×	昭和14年	1939		広島	16, 17	16は「新居浜市役所」。
352	愛媛県	宇和島市昭翠園	宇和島市	宇和島市本町追手2付近(追手門(すでに無い)の内側にあった公園)	×	昭和14年	1939		広島	16, 17	
353	愛媛県	愛媛県大洲町城山公園	大洲市	城山公園	×	昭和14年	1939		広島	16, 17	16は県名表記なし。
354	愛媛県	今治市吹上公園	今治市	吹揚公園	×	昭和14年	1939		広島	16, 17	
355	愛媛県	愛媛県吉田町安藤神社境内	宇和島市	安藤神社	×	昭和15年	1940		広島	17	
356	愛媛県	愛媛県波止浜町三叉路	今治市	龍神社付近?	×	昭和15年	1940		広島	17	
357	愛媛県	愛媛県宇和町坪ヶ谷公園	西予市	雨山公園	×	昭和15年	1940		広島	17	
358	愛媛県	愛媛県長浜町松原グラウンド	大洲市			昭和15年	1940		広島	17	
359	愛媛県	愛媛県郡中町国鉄駅前	伊予市	JR伊予市駅		昭和15年	1940		広島	17	
360	愛媛県	愛媛県松山市高浜町船車発着場	松山市	伊予鉄道高浜駅・高浜港?		昭和16年	1941		広島	18	
361	高知県	高知市城山公園	高知市	高知公園		昭和8年	1933	高9.9尺、幅5.3尺、鉄筋混凝土、自動スイッチ付、燈籠型	広島	8-17	8に「高知市内公園」とあるため設置年は昭和7年から昭和8年に修正。
362	高知県	中村町一条神社境内	四万十市	一條神社		昭和14年	1939		広島	16	
363	高知県	高知市堺町使者屋橋畔	高知市	高知大丸付近		昭和15年	1940		大坂	17	
364	高知県	高知県安芸郡室戸町	室戸市			昭和16年	1941		大坂	18	
365	福岡県	福岡市東公園	福岡市博多区	東公園		昭和7年	1932	高15尺、幅5尺、鉄筋混凝土、自動スイッチ付、石燈籠型	熊本	8-16	

366	福岡県	福岡市記念公園	福岡市博多区	中島公園		昭和7年	1932	高19.8尺、下部に前幅19.8尺の腰掛あり、軍艦マスト型	熊本	8-12	
367	福岡県	福岡市大濠公園	福岡市中央区	大濠公園		昭和7年	1932	高19.8尺、下部に前幅同19.8尺の腰掛あり、軍艦マスト型	熊本	13-16	16の設置年は昭和12年。
368	福岡県	小倉市勝山遊覧地	北九州市小倉北区	勝山公園		昭和7年	1932	高10尺、間口奥行上下共6尺、木造籠型	熊本	8-16	16は「小倉市勝山遊園地」。
369	福岡県	八幡市宮田遊園地	北九州市八幡東区			昭和7年	1932	高10尺、底部4.5尺平方、木造籠型	熊本	8-12	
370	福岡県	八幡市豊山公園	北九州市八幡東区	豊山神社		昭和7年	1932	高10尺、底部4.5尺平方、木造籠型	熊本	13-16	16は昭和11年設置、所在地「八幡市豊山公園」とあり。「八幡市」は八幡市の誤植か。 8には「門司市」「位置だけ確定」とあり。9は「門司老松公園」。
371	福岡県	門司市老松公園	北九州市門司区	老松公園		昭和7年	1932	高10尺、底部4.5尺平方、木造籠型	熊本	8-16	
372	福岡県	若松市蛭子神社境内	北九州市若松区	若松恵比須神社？		昭和7年	1932	高10尺、底部4.5尺平方、木造籠型	熊本	8-12	
373	福岡県	戸畑市八幡神社境内	北九州市戸畑区	飛幡八幡宮		昭和10年	1935	燈籠型（社務所建設、受信機寄贈）	熊本	11-16	
374	福岡県	小倉市到津八幡公園	北九州市小倉北区	到津八幡神社？		昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は昭和14年。
375	福岡県	戸畑市公会堂前広場	北九州市戸畑区			昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は昭和14年。
376	福岡県	若松市佐藤公園	北九州市若松区	佐藤公園		昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は昭和14年。
377	福岡県	直方市役所前広場	直方市			昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は昭和14年。
378	福岡県	飯塚商工会議所前広場	飯塚市			昭和15年	1940		熊本	16, 17	17は「飯塚市商工会議所前」。17の設置年は昭和14年。
379	福岡県	久留米市市役所前	久留米市			昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は昭和14年。
380	福岡県	柳河町役場前	柳川市			昭和15年	1940		熊本	16	17は「福岡市八女公園」。「福岡市」は福岡市の誤植か。17の設置年は昭和14年。
381	福岡県	福島町八女公園	八女市	八女公園		昭和15年	1940		熊本	16, 17	

	都道府県	『ラジオ年鑑』記載の名称	現在の市町村名	現在の立地 (空欄は不明)	現地確認による有無 (空欄は未確認)	設置年	設置年 (西暦)	『ラジオ年鑑』記載の設計 概要	放送局	『ラジオ年鑑』記載号 (昭和14年版は欠号)	備考
382	福岡県	福岡県太宰府町東園内	太宰府市			昭和15年	1940		熊本	16, 17	16は「太宰府東園」。17の設置年は昭和14年。
383	福岡県	福岡市住吉神社境内	福岡市博多区	住吉神社		昭和15年	1940		熊本	17	
384	福岡県	福岡市西公園	福岡市中央区	西公園		昭和15年	1940		熊本	17	
385	福岡県	小倉市足立公園	北九州市小倉北区	足立公園		昭和15年	1940		熊本	16, 17	17は「小倉市足立公園」。17の設置年は昭和14年。
386	福岡県	大牟田市延命公園	大牟田市	延命公園		昭和15年	1940		熊本	17	
387	福岡県	福岡県津屋崎町役場構内	福津市			昭和15年	1940		熊本	17	
388	福岡県	福岡県伊田町八幡神社境内	田川市	風治八幡宮?		昭和15年	1940		熊本	17	
389	福岡県	福岡県後藤寺町丸山公園内	田川市			昭和15年	1940		熊本	17	【一 幡 2017】に無し。
390	福岡県	小倉市黄金公園	北九州市小倉北区	黄金公園		昭和16年	1941		熊本	18	
391	福岡県	小倉市判津新町公園	北九州市小倉北区?	下到津?		昭和16年	1941		熊本	18	【判津】は「判津」の誤植カ。
392	福岡県	久留米市旭屋ゾー卜横広場	久留米市	久留米ゾテイクゾサ		昭和16年	1941		熊本	18	
393	福岡県	福岡県三橋村三柱神社境内	柳川市	三柱神社		昭和16年	1941		熊本	18	【三柱神社】は三柱神社の誤植カ。
394	福岡県	大牟田市大牟田神社境内	大牟田市	大牟田神社		昭和16年	1941		熊本	18	
395	福岡県	福岡県水田村船十屋公園	筑後市			昭和16年	1941		熊本	18	【船十屋】は「船小屋」の誤植カ。
396	福岡県	福岡県二日市町武蔵温泉案内所	筑紫野市	二日市温泉		昭和16年	1941		熊本	18	
397	佐賀県	唐津市大手口広場	唐津市	大手口広場		昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は昭和14年。
398	佐賀県	佐賀県伊万里町相生橋	伊万里市	相生橋		昭和15年	1940		熊本	17	
399	佐賀県	佐賀県嬉野町温泉公園	嬉野市	嬉野温泉公園		昭和16年	1941		熊本	18	
400	長崎県	長崎市諏訪公園	長崎市	長崎公園	○	昭和11年	1936	高12尺、鉄筋混凝土、春日燈籠型	熊本	13-16	神燈型カ。
401	長崎県	長崎市湊公園	長崎市			昭和13年	1938		熊本	16	
402	長崎県	佐世保市記念公園	佐世保市			昭和15年	1940		熊本	16, 17	16は「佐世保市」のみ。17の設置年は昭和14年。
403	長崎県	佐世保市八幡神社境内	佐世保市	亀山八幡宮		昭和15年	1940		熊本	16, 17	16は「佐世保市」のみ。17の設置年は昭和14年。
404	長崎県	長崎県小浜町雲仙公園	雲仙市			昭和15年	1940		熊本	16, 17	16は「雲仙公園緑地帯」。17の設置年は昭和14年。

405	長崎県	長崎県小浜町揚町海岸	雲仙市			昭和15年	1940		熊本	17	
406	長崎県	長崎県平戸町亀山公園	平戸市	亀岡公園?		昭和15年	1940		熊本	17	
407	長崎県	長崎県諫早町公園広馬場	諫早市			昭和15年	1940		熊本	17	
408	長崎県	長崎県大村町大村公園	大村市	大村公園		昭和15年	1940		熊本	17	
409	長崎県	長崎県杵臼衣町出島岸壁前	長崎市			昭和16年	1941		熊本	18	
410	長崎県	長崎県茂木町汐見崎遊園地 広場	長崎県	潮見崎観音付 近?		昭和16年	1941		熊本	18	
411	長崎県	長崎県福江町岸壁前	福江市			昭和16年	1941		熊本	18	
412	長崎県	島原市役所前広場	島原市			昭和16年	1941		熊本	18	
413	熊本県	熊本市花畑公園	熊本市中央区	花畑公園		昭和7年	1932	高15尺、幅5尺、鉄筋混 凝土、自動スリッチ付、石 燈籠型	熊本	8-16	
414	熊本県	熊本市代継神社境内	熊本市中央区	花畑公園		昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は 昭和14年。
415	熊本県	熊本市加藤神社境内	熊本市中央区	加藤神社		昭和15年	1940		熊本	17	
416	熊本県	熊本市北岡神社境内	熊本市西区	北岡神社		昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は 昭和14年。 17は「八代市 八幡宮境内」。 17の設置年は 昭和14年。
417	熊本県	八代町八幡宮境内	八代市			昭和15年	1940		熊本	16, 17	
418	熊本県	熊本県日奈久町海岸大通	八代市			昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は 昭和14年。 16は「山鹿町 有広場」。17 の設置年は昭 和14年。
419	熊本県	熊本県山鹿町々有広場	山鹿市			昭和15年	1940		熊本	16, 17	
420	熊本県	熊本市手取神社境内	熊本市中央区	手取天満宮		昭和15年	1940		熊本	17	
421	熊本県	熊本県三角町三角駅構内	宇城市	JR三角駅		昭和15年	1940		熊本	17	
422	熊本県	熊本県人吉町麓公園	人吉市	人吉城跡公園?		昭和15年	1940		熊本	17	
423	熊本県	熊本県本渡町役場構内	宇城市			昭和15年	1940		熊本	17	
424	熊本県	熊本県松橋町大通り	宇城市			昭和16年	1941		熊本	18	
425	熊本県	熊本県隈府町役場構内	菊池市			昭和16年	1941		熊本	18	
426	熊本県	熊本県宮地町役場構内	阿蘇市			昭和16年	1941		熊本	18	
427	熊本県	熊本県内牧町共同温泉場 広場	阿蘇市			昭和16年	1941		熊本	18	
428	熊本県	熊本県御船町大通り	上益城郡御船町			昭和16年	1941		熊本	18	
429	熊本県	熊本県甲佐町甲南橋	上益城郡甲佐町			昭和16年	1941		熊本	18	
430	大分県	大分市春日公園	大分市	春日公園		昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は 昭和14年。
431	大分県	別府市海門寺公園	別府市	海門寺公園		昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は 昭和14年。
432	大分県	別府市松原公園	別府市	松原公園		昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は 昭和14年。 16は「中津市 公園」。17の 設置年は昭和 14年。
433	大分県	中津市中津公園	中津市			昭和15年	1940		熊本	16, 17	
434	大分県	大分県竹田町広瀬神社境内	竹田市	広瀬神社		昭和15年	1940		熊本	17	
435	大分県	大分県佐伯市役場構内	佐伯市			昭和15年	1940		熊本	17	

	都道府県	『ラジオ年鑑』記載の名称	現在の市町村名	現在の立地 (空欄は不明)	現地確認による有無 (空欄は未確認)	設置年	設置年 (西暦)	『ラジオ年鑑』記載の設計概要	放送局	『ラジオ年鑑』記載号 (昭和14年版は欠号)	備考
436	大分県	大分市長浜神社境内	大分市	長浜神社		昭和16年	1941		熊本	18	
437	大分県	大分県宇佐神宮境内	宇佐市	宇佐神宮		昭和16年	1941		熊本	18	
438	大分県	大分県臼杵町役場構内	臼杵市			昭和16年	1941		熊本	18	
439	宮崎県	宮崎市公会堂前広場	宮崎市			昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は昭和14年。
440	宮崎県	都城市公会堂広場	都城市			昭和15年	1940		熊本	16, 17	16は「都城市公会堂前広場」17の設置年は昭和14年。
441	宮崎県	都城市神柱神社境内公園	都城市	神柱宮		昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の「神柱神社」は神柱神社の誤植カ。17の設置年は昭和14年。
442	宮崎県	延岡市延岡駅構内	延岡市	JR延岡駅		昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は昭和14年。
443	宮崎県	延岡市三瀬町	延岡市			昭和15年	1940		熊本	17	
444	宮崎県	青島村宮崎鉄道子供天国	宮崎市	こどものくに	×	昭和15年	1940		熊本	17	
445	宮崎県	宮崎県高鍋町駅通	児湯郡高鍋町	JR高鍋駅		昭和16年	1941		熊本	18	
446	宮崎県	宮崎県飯野町々役場構内	日南市	日南市飯野5丁目1番地付近の駐車場	×	昭和16年	1941		熊本	18	
447	宮崎県	宮崎県小林町駅前広場	小林市			昭和16年	1941		熊本	18	
448	宮崎県	宮崎県本庄町本庄警部補派出所前広場	東諸県郡国富町			昭和16年	1941		熊本	18	
449	鹿児島県	鹿児島市祇園洲公園	鹿児島市	祇園之洲公園	×	昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は昭和14年。
450	鹿児島県	鹿児島市鴨池公園動物園	鹿児島市	鴨池公園		昭和15年	1940		熊本	16, 17	17は「鹿児島市鴨池公園」17の設置年は昭和14年。
451	鹿児島県	鹿児島市南林寺公園	鹿児島市			昭和15年	1940		熊本	16, 17	17の設置年は昭和14年。
452	鹿児島県	鹿児島県指宿町摺之浜	指宿市	摺ヶ浜温泉(指宿温泉)		昭和15年	1940		熊本	17	
453	鹿児島県	鹿児島県加世田町竹田神社構内	南さつま市	竹田神社		昭和15年	1940		熊本	17	
454	鹿児島県	鹿児島県川内市役所構内	薩摩川内市			昭和15年	1940		熊本	17	
455	鹿児島県	鹿児島県鹿屋町信用組合横広場	鹿屋市			昭和15年	1940		熊本	17	
456	鹿児島県	鹿児島県志布志町志布志駅広場	志布志市	JR日南線志布志駅		昭和15年	1940		熊本	17	
457	鹿児島県	鹿児島県阿久根町役場構内	阿久根市			昭和15年	1940		熊本	17	
458	鹿児島県	鹿児島県加治木町綱掛橋横広場	始良市	綱掛橋?		昭和16年	1941		熊本	18	
459	鹿児島県	鹿児島県出水町公会堂前広場	出水市	出水公会堂	×	昭和16年	1941		熊本	18	

460	鹿児島県	鹿児島県末吉町役場前広場	曾於市		昭和 16 年	1941	熊本	18	
461	鹿児島県	鹿児島県垂水町棧橋前広場	垂水市		昭和 16 年	1941	熊本	18	
462	鹿児島県	鹿児島県大口町駅前広場	伊佐市	大口ふれあいセンター	昭和 16 年	1941	熊本	18	
463	鹿児島県	鹿児島県霧島神宮前広場	霧島市	霧島神宮	昭和 16 年	1941	熊本	18	
464	沖縄県	首里市尚家邸前広場	那覇市		昭和 16 年	1941	熊本	18	
465	沖縄県	那覇市波野上神社前広場	那覇市	波上宮	昭和 16 年	1941	熊本	18	

注) 〔一幡 2017〕を底本に『ラジオ年鑑』記載のラジオ塔を一覧にした [図師ほか 2019] の「ラジオ塔一覧」を修正し、作成した。

字体は原則として常用漢字を使用した。

『ラジオ年鑑』記載の名称は、原則として初出の記載を採用した。ただし、市町村名が記載されるなど、後出の表記が分かりやすいと判断した場合はその限りではない。とくに注記すべき表記のゆれ、誤植などについては、備考欄に掲載した。

「現在の市町村名」「現在の立地」「現地確認による有無」は、〔一幡 2017〕の情報をそのまま記載した（一部、明らかに誤りと思われるものは修正した）。設置年は『ラジオ年鑑』を参照したが、①他の資料から設置年が確定される場合は、備考に出典を明記したうえで確定した設置年を記載した。②『ラジオ年鑑』掲載のラジオ塔の設置年は原則として「昭和 16 年（1941）」とした。

〔一幡 2018〕には、「随時必要に応じ各所へ移動設置」という関東支部管内の「移動用ラジオ塔」がリスト化されていたが、いわゆる「ラジオ塔」とは形態や性格が異なるものと考え、一覧から除いた。

〔一幡 2018〕には、『ラジオ年鑑』初出のさいの記載にしたかった。